



詳細作成支援システムを使った 速報及び詳細の作成と提出方法について

独立行政法人 製品評価技術基盤機構（NITE）
国際評価技術本部 電力安全センター

<はじめに>

本資料は独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE） 国際評価技術本部 電力安全センターにて公開している「詳細作成支援システム」について、主な利用方法及びよくあるご質問に関する解決策を記載した資料となります。

本システムを使って速報・詳細を作成し、所管の産業保安監督部に提出を行う作業でご活用いただくことを想定しております。

※本資料は2024年4月1日時点での詳細作成支援システムについて、利用方法をまとめたものとなります。

資料内の画像は、今後のシステムアップデートにより一部画面が変更となる可能性がございます。ご了承ください。

目次

1. 詳報作成支援システムの概要
2. 詳報の作成方法について
 - ① 事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法
 - ② 事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法
 - ③ 事業用詳報:1号+12号(複合事故)の入力方法
 - ④ 作成した詳報のメール報告方法
 - ⑤ 小規模事業用電気工作物に関する詳報の入力方法
 - ⑥ 速報の入力方法
 - ⑦ 過去に作成・保存した詳報XMLファイルの再利用について
3. よくあるご質問及び注意事項
4. (参考)詳報公表システムの概要

本資料の目次は以下のとおりです。

「2. 詳報の作成方法について」にて各報告書の入力方法を詳しく解説しておりますので、システムの概要をご存知の場合は2. までお進みください。

詳報作成支援システムの概要

1. 詳報作成支援システムの概要



- 電気事故発生の実業者は、事故発生から30日以内に経済産業省に**事故報告書（詳報）**を提出する必要がある。
 - 事故の種類によって記載すべき内容が変わるほか、項目も多岐に渡るため、**一から作成するには手間と時間がかかる。**
- ↓
- 「**詳報作成支援システム**」を利用すると、指示に従って入力していくことで、**完成度の高い詳報を作成することが可能。**

- 電気事故報告書の作成は、以下の2つのボタンから該当するものを選択します。
 - ①「**事故詳報作成**」（電気関係報告規則第3条に係る電気事故報告（詳報））
 - ②「**小規模事業用電気工作物事故報告書作成**」（旧称：小出力の太陽電池発電又は風力発電設備に係る事故）
- 令和5年度からは詳報に加えて**速報についても本システムから作成、提出が可能**となりました。



【詳報作成支援システム】
<https://www.nite.go.jp/gcet/2so/shohosupport/>

※システムの詳しい使い方は、YouTubeに解説動画も公開しております。
<https://www.youtube.com/playlist?list=PLWxWKOj3xAL7i1d7j17v8ieCHYM6gk>

電気事故が発生した際、事故発生から**30日以内**に経済産業省へ事故報告書（詳報）を作成・提出する必要があります。この詳報は事故の種類によって記載事項が変わるほか、記載項目が多岐に渡ることから報告書作成作業にかなりの時間を要します。

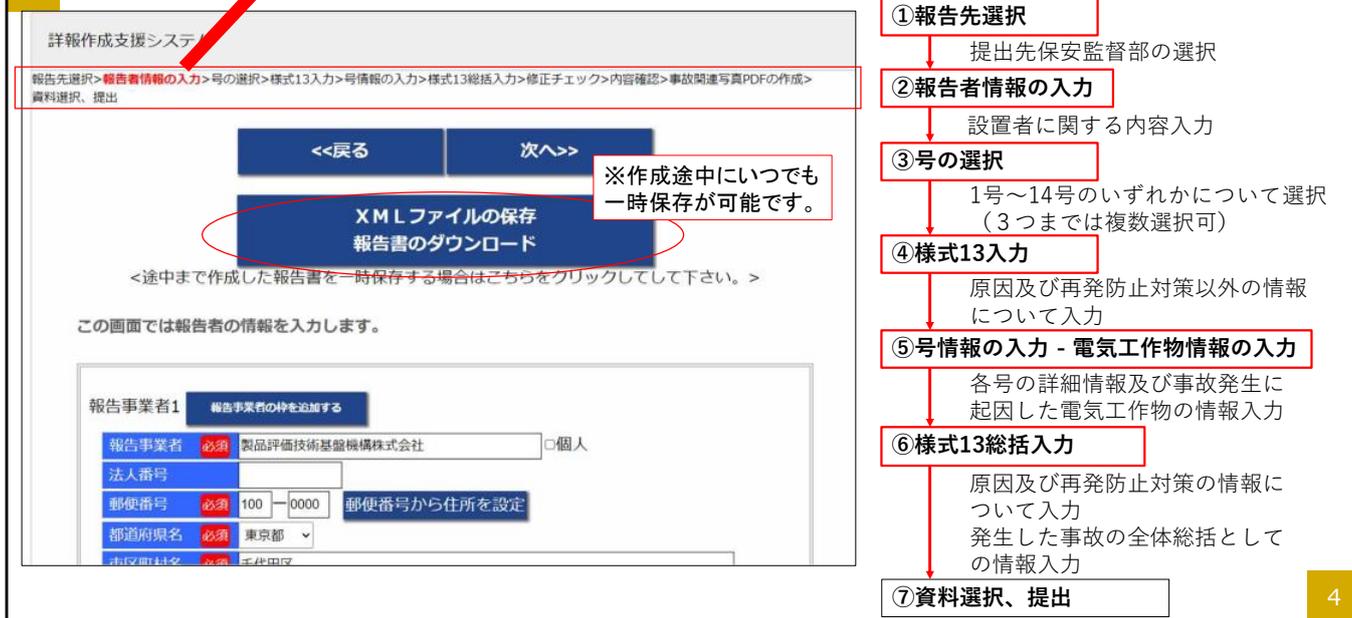
詳報作成支援システムを利用して詳報を作成することで、画面の指示に沿って入力することで**完成度の高い詳報を作成することが可能**となります。作成したい詳報に応じて、上記のトップページから「**事故詳報作成**」と「**小規模事業用電気工作物事故報告書作成**」の2種のボタンからご選択ください。また、令和5年度から2種のボタンの右隣に「**速報**」ボタンが追加され、事故発生から**24時間以内**に報告が必要である速報を作成・提出できるようにアップデートいたしました。

なお、本解説資料以外にもYouTubeにて解説動画を公開しておりますので、適宜ご活用いただければ幸いです。

■ 詳報作成支援システム入力の流れ

nite

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



詳報作成支援システムを利用した詳報作成は、上記スライドの①～⑥までの手順で各項目を入力します。

入力途中でどこまで進んでいるかは、各ページの上部にある進捗表示で確認が可能です。

(赤文字になっている項目が現在開いている入力ページの名称となっております。)

また、一度に全ての項目を入力する必要はなく、途中で入力データを一時保存し、後日、途中から作業を再開することも可能です。

※一時保存は、お使いのパソコン・スマートフォンにXMLファイルというテキストベースのドキュメントを必ず保存するようお願いいたします。PDFファイルの報告書のみを保存しても、途中からの入力再開はできません。

■システム上の入力項目と作成できる報告書について

電気関係報告規則第3条に規程する事故報告は、基本情報（様式13）を軸に、該当する号に対応した報告書の作成が必要です。詳細作成支援システム上に表示される入力項目は、選択した号に応じて変化します。

詳細作成支援システムで作成した
詳細PDFの一部イメージ

電気関係事故報告書	
1. 種 別	
2. 報告事業者	
3. 発生場所（電気工作物の設置場所）	
4. 発生日時	
5. 種別	
6. 種 別	
7. 被害状況	
8. 原因	
9. 防止対策	
10. 報告事業者の代表者及び所属（報告書提出者とは異なる場合あり）	
11. 電気工作物の設置者の確認	

様式13 基本情報

- 報告事業者
- 主任技術者
- 件名
- 事故発生日時
- 事故発生状況
- 復旧日時
- 事故原因
- 防止対策

(別紙)

+

死傷事故(1号)であれば・・・ こんな情報も入力

- 作業員情報
 - ・事故時の安全装備状況
 - ・経験年数
- 電気工作物情報
 - ・充電部の状態

等

(別紙)

+

波及事故(8-12号)であれば・・・ こんな情報も入力

- 保護協調不備の内容
- 電気工作物情報
 - ・破損した等の事故発生原因となった
1次要因の電気工作物の情報
(製造事業者・型式・仕様・設置年数・製造年月)
 - ・正常に動作しなかった区分閉器など、波及事故に至る要因(**2次要因**)となった電気工作物の情報

等

(別紙)

+

破損事故(4号、5号)であれば・・・ こんな情報も入力

- 破損箇所と破損箇所に対する復旧内容
- 電気工作物情報
 - ・(製造事業者・型式・仕様・設置年数・製造年月)
- 点検状況

等

前ページの流れに沿ってすべての必要事項を入力することで、詳細のPDF報告書が完成します。報告書は基本情報である「様式13」を軸に、入力中に選んだ号に対応した「別紙」が付随して作成されます。詳細作成支援システム上に表示される入力項目の内容についても、選んだ号に対応して表示が変化します。

■ 詳細作成支援システムご利用の前に

nite

利用上の注意点

1. 詳細作成支援システムは以下のWebブラウザに対応しています。
(ソフトウェアのダウンロードやインストールは不要です。)

- Microsoft Edge 
- Google Chrome 



2. システムはデータをサーバ上に残さない運用としております。そのため、**作業中断時や終了時に入力データの保存 (XMLファイルの取得) を必ず行うようにお願いいたします。**

(PDFファイルのみを保存すると、作業途中からの入力再開ができませんのでご注意ください。)

3. 定期的なシステムメンテナンス実施のため、一時的に詳細作成支援システムがアクセス不可となる時間帯がございます。メンテナンスの予定は下記ページにて公開しています。

<https://www.nite.go.jp/gcet/tso/shoho.html>

4. 詳細作成支援システムのメンテナンス後、システム画面の表示が崩れる場合があります。(システムの障害ではありません。) これらの事象は、操作画面上で「Ctrl+F5 (MacはCommand+R)」を押すか、ブラウザに保存されている詳細作成支援システムのキャッシュ (履歴) を一度消去することで解消します。

6

ご利用にあたって、注意点をいくつかご説明いたします。

1. 詳細作成支援システムはWebブラウザ「Microsoft Edge」及び「Google Chrome」に対応しております。ご利用の際はこの2つのブラウザのどちらかを利用してください。未対応のブラウザを利用した場合、入力や報告書作成が正常に稼働しない恐れがあります。
2. 本システムはサーバ上には入力データを一切残さない運用をしているため、システムを閉じる場合には、必ず入力データの保存 (XMLファイルのダウンロード) を実施ください。PDFファイルの報告書のみを保存した場合、途中からの入力再開ができませんのでご注意ください。
3. 本システムは定期的にシステムメンテナンスを行う必要があり、一時的にシステムへのアクセスができない時間帯が発生します。メンテナンスの予定はNITE公式ホームページにて掲載しておりますので、詳細作成支援システムのページが表示されない場合はご確認ください。
4. 詳細作成支援システムのメンテナンス後、システム画面の表示が崩れる等の事象が発生する場合があります。(システムの障害ではありません。) これらの事象は、操作画面上で「Ctrl+F5 (MacはCommand+R)」を押すか、ブラウザに保存されている詳細作成支援システムのキャッシュ (履歴) を一度消去することで解消します。

詳報の作成方法について

事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

7

2. 詳報の作成方法について ①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法 nite

事例①の場合（1号：感電死傷事故）

作業員がキュービクル内の銘板確認中に、計器用変成器（VT）の充電部に接触し、やけど（感電負傷）を負った。

【事前準備が必要な事項及び添付書類】



報告において必要な事項

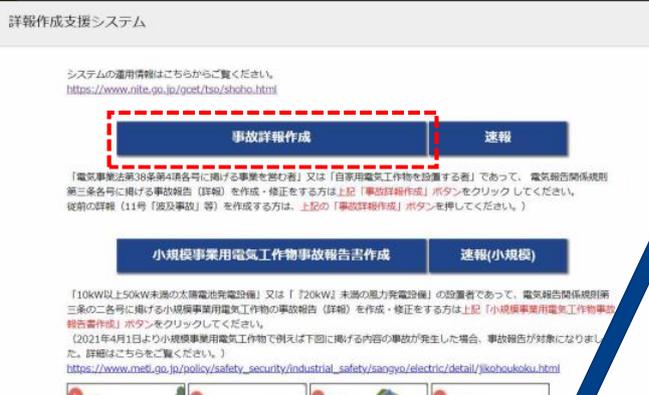
- 作業員情報
 - ・ 感電経路
 - ・ 事故時の安全装備状況
 - ・ 経験年数
 - ・ 安全教育
- 電気工作物情報
 - ・ 充電部の状態

その他添付書類

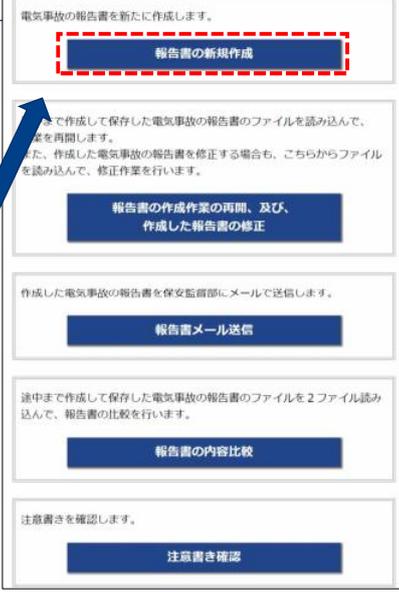
- ・ 使用区域平面図
- ・ 単線結線図
- ・ 作業状況図
- ・ 感電負傷箇所
- ・ 診断書
- ・ 保守点検記録等

8

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法



はじめる前の注意事項等記載ページ
記載事項をご確認いただき、
問題なければ「次へ」ボタン押下



入力画面へ (次ページ)

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



注意点
[必須]の項目を全て入力することで
次のページに進むことができます。
入力が完了しましたら「次へ>>」
のボタンを押してください。

- 報告書の報告区分
- 報告提出先監督部
- 詳報(報告書)提出日 を入力

「次へ>>」ボタンを押して
「報告者情報の入力」ページへ移動

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > **報告者情報の入力** > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

この画面では報告者の情報を入力します。

報告事業者1

報告事業者 個人

法人番号

郵便番号

都道府県名

市区町村名

明細・番地・建物名

代表者氏名

代表者役職名

事業者区分 電気事業法第38条第4項各号に掲げる事業者を営む者
 自家用電気工作物を設置する者
 送電事業者 発電事業者 一般送配電事業者 特定送配電事業者
 配電事業者

「電気事業法第38条第4項各号に掲げる事業者を営む者」に該当する発電事業者は、電気事業法施行規則第48条の二により、200万kW(沖縄電力供給区域は10万kW)を超えること。

報告担当者

連絡先
(最大400文字)

提出する詳細の内容について、照い合わせの際に使用します。
 担当者の氏名、所属、連絡先(電話、E-MAIL)を記載してください。

- ・報告事業者の情報
- ・報告担当者連絡先 を入力

※自家用電気工作物を設置する者であっても、発電設備を有している場合、電気事業法第27条の27第1項の届出をした者のみ「発電事業者」にもチェック。

発電を行っているが、上記届出が必要でない者はチェックしない。

参考：

https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/electricity_measures/004/pdf/004shiryo_01.pdf

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > **報告者情報の入力** > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

主任技術者1

主任技術者(外部委託にあつては電気管理技術者または保安業務担当者)の名前 未選任

主任技術者選任方法 自社選任 外部選任 所属
 ([外部選任について] 外注事業者 派遣法による派遣事業者)
 統括 兼任承認 選任許可 外部委託

主任技術者種類 電気主任技術者
 (第一種 第二種 第三種 免状番号:)
 (電気工事士 第一種 第二種 特種
 認定校卒業(第1種) 認定校卒業(第2種) その他
 その他を選択された方は、備考に記載してください。)
 ボイラー・タービン主任技術者
 (第一種 第二種 免状番号:)
 ダム水路主任技術者
 (第一種 第二種 免状番号:)

備考
(最大1024文字)

複数、主任技術者がいる場合は、追加が可能。

自社選任の場合は自社の所属を、外部であれば事業者名の記載。

複数の主任技術者の役割を同一人物が担っている場合は、複数のチェックが可能。

➡ 「次へ>>」 ボタンを押して「号の選択」ページへ移動

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法



報告先選択 > 報告者情報の入力 > **号の選択** > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

件名 **必須** 銘板調査作業中に発生した作業者感電負傷事故

▲発生した電気事故の件名は次の要領により記入する。▼

事故発生日 **必須** 2023年02月15日14時00分 不明

事故発覚日 **必須** -年-月-日-時-分-分

正確な日時が分からない場合は、管轄の監督部等に相談して推定日時を入力します。事故発生日時が全く推定できず不明とする場合は、事故発生日時の不明をチェックして事故発覚日を入力してください。

天候 **必須** 晴れ 曇り 霧 雨 雪 あられ・ひょう 雷 その他

事業場の最大電力 (発電出力) _____ kW

事業場の受電電圧 _____ kV

事業場の受電容量 _____ kVA

事業場の最大電力、事業場の受電電圧、事業場の受電容量の何れか一つ以上は入力**必須**

事業場が太陽電池発電所の場合は下記内容について必ず入力してください。
 ・設置場所の周囲にさく、へい等をつけているか。(可能であれば高さや構成素材等情報を併せて入力。)
 ・出入口の立ち入りを禁止する旨を表示しているか。(立入禁止看板の設置有無等を入力。)
 ・出入口に施設装置を施設している場合、取扱者以外の者の出入口を制限する措置を講じているか。

※太陽電池発電所以外の設備については「該当なし」と入力いただくか、任意で欄・へい等の設置有無やその他事業場情報について入力してください。

該当なし

その他事業場の情報 **必須**

発生日時が不明の場合は、事故を覚知した日を記載してください。

天候が不明の場合は、その他の欄に「不明」と記載してください。

発電を行っている事業者は、発電電力及び系統連携電圧(受電電圧欄に記載)を、受電を行っている事業者は受電電圧及び受電容量を記載してください。

発電も受電も行っている場合は、系統連携電圧と受電電圧のいずれか大きい方の値を記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法



報告先選択 > 報告者情報の入力 > **号の選択** > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

電気事故報告書の提出に際しては、事故の発生状況を正確に把握し、適切な報告を行うことが重要です。事故の発生状況を正確に把握し、適切な報告を行うことが重要です。事故の発生状況を正確に把握し、適切な報告を行うことが重要です。

号の選択

1号: 死傷事故

2号: 感電死傷事故

3号: 電気工作物の損壊又は電気工作物の取付け若しくは電気工作物を操作しないことにより、他の物件に損壊を与え、又はその損壊の全部又は一部を損じた事故

4号: 感電事故

5号: 感電事故 第1号、第3号及び第9号から第11号までに掲げるものを除く主要工作物の事故

6号: 発電支援 水力発電所、火力発電所、燃料電池発電所、太陽電池発電所又は風力発電所に属する出力十キロワット以上の発電設備に係る七日間以上の発電支援事故

7号: 出力十キロワット以上の蓄電池に係る七日間以上の放電支障事故

8号: 供給支障事故、送電事故 供給支障電力が七キロワット以上七千キロワット未満の供給支障事故であって、その支障時間が一時間以上のもの、又は供給支障電力が七千キロワット以上十千キロワット未満の供給支障事故であって、その支障時間が十分以上のもの(第10号及び第12号に掲げるものを除く。)

9号: 供給支障電力が十千キロワット以上の供給支障事故であって、その支障時間が十分以上のもの(第10号及び第12号に掲げるものを除く。)

10号: 電気工作物の損壊又は電気工作物の取付け若しくは電気工作物を操作しないことにより他の電気事業者が供給支障電力が十千キロワット以上十千キロワット未満の供給支障を発生させた事故であって、その支障時間が一時間以上のもの、又は供給支障電力が七千キロワット以上十千キロワット未満の供給支障を発生させた事故であって、その支障時間が十分以上のもの

11号: 電気工作物の損壊又は電気工作物の取付け若しくは電気工作物を操作しないことにより他の電気事業者が供給支障電力が十千キロワット以上の供給支障を発生させた事故であって、その支障時間が十分以上のもの

12号: 一般送配電事業者の一般送配電事業の用に供する電気工作物又は特定送配電事業者の特定送配電事業の用に供する電気工作物と電気的に接続されている電圧三十ボルト以上の自家用電気工作物の損壊事故又は自家用電気工作物の取付け若しくは自家用電気工作物を操作しないことにより一般送配電事業者又は特定送配電事業者が供給支障を発生させた事故

13号: ダムによって貯留された洪水が当該ダムの洪水吐きから異常に溢流された事故

14号: 社会的に影響を及ぼした事故

事例①の場合は、1号: 死傷事故にチェック

※1号から14号までの該当する号にチェック。
 ※最大3つの号までは複数選択可。

注意点

令和4年12月1日法改正により、事故報告の区分として「7号: 出力十キロワット以上の蓄電池に係る七日間以上の放電支障事故」が新設されました。
 (新設に伴い、以前の7号~13号の事故は8号~14号となり、番号がひとつ繰り上げとなります。)

「次へ>>>」ボタンを押して「様式13入力」ページへ移動

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > **様式13入力** > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

事故発生状況

(1)事故発生前の状況

事故発生前の状況は、以下の9項目何れか一つ以上は入力必須です。
入力する項目をクリックすると入力するための枠が表示されます。

- 天気・天候・湿度・温度
- 発電状況
- 負荷状況
- 電力潮流
- 関係電気工作物の施設状況
- 保守点検の状況
- 運転の状況
- 作業の状況

設備に改修や点検など作業中に事故が発生した場合に、その内容を入力してください。

作業の状況 (最大400文字)	月次点検作業実施。 月次点検作業終了後、予定外の結核確認作業を実施。
--------------------	---------------------------------------

その他

(1) 事故発生前の状況の入力について

- ①天気・天候・湿度・温度
- ②発電状況
- ③負荷状況
- ④電力潮流
- ⑤関係電気工作物の施設状況
- ⑥保守点検の状況
- ⑦運転の状況
- ⑧作業の状況
- ⑨その他

①～⑨のいずれか1つ以上を記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > **様式13入力** > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

(2)事故発生時の経緯

事故の発生・拡大の電氣的及び時間的経緯、保護装置の動作状況、保安通區、給電連絡等の状況を時系列で入力してください。

日時	内容(200文字)
2023年2月15日	作業者A(被害者)、作業者B、作業者Cの3名で月次点検作業実施。
2023年2月15日 14:00	月次点検作業終了後、変圧器のPOB含有量検査の為、変圧器の結核を撮影しようとしたとき、計器用変成器(VT)の高圧ヒューズ部に作業者Aの左手が触れ感電した。
(続き)	感電した際に、地絡し、高圧気中開閉器が作動し、校内が停電した。
同日 14:05	停電に気付いた作業者Bが被害者を発見し、救急連絡をした。
同日 14:20	作業者Dは、電気設備の点検を実施し、異常がなかったことから、高圧気中開閉器を投入し受電を再開した。

事故発生時の経緯備考
(最大400文字)

その他
(最大2000文字)

上記以外の事故の発生時の経緯に関する情報があれば、入力してください。

(2) 事故発生時の経緯について

時系列で何が起きたか分かるように記載してください。

<記入例>

- 月●日 15:00 保守点検実施
- /○ ○○について交換
- 22:00 事故発生

設備点検の規則・手順や「(1) 事故発生前の状況」の項目で記載できない内容について記載してください。

事故発生時の経緯について、時系列で記載できない内容について記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > **様式13入力** > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

(3) 応急処置

2023年2月15日 14:05
停電に気付いた作業員Bが被害者を発見し、救急連絡をした。

応急処置 (最大400文字)

事故の発生や被害の拡大を防ぐための応急措置を入力してください。

(4) 復旧作業

2023年2月15日 14:20 復旧
作業員Bは、電気設備の点検を実施し、異常がなかったことから、高圧気中開閉器を投入し受電を再開した。

復旧作業 (最大400文字) **必須**

事故発生前の運用状態に復旧させるための本復旧作業について入力してください。復旧作業をせずに、廃止したり、復旧させるかどうか決まっていない場合は、その旨を記載し、報告書の提出時点で復旧作業中の場合は、復旧の予定を入力してください。電気工作物に被害などがなく、復旧作業をしないで直ぐに事業が継続できる場合は、その旨を入力してください。また、事業継続のために仮の復旧作業を行った場合は復旧の内容についても入力してください。

本復旧日時 **必須** 2023年 02月 15日 14時 20分 *実施済 実施せず
 未定 予定

仮復旧日時 年-月-日 時-分-秒 *実施済 実施せず
 未定 予定

- (3) 応急処置について
 応急処置として実施した
 ・ 救急処置
 ・ 開閉器操作
 ・ 電気設備作業
 ・ 施設改修作業
 などを記載してください。

- (4) 復旧作業について
 復旧作業として実施した作業
 及び作業日時（仮復旧を含む）
 ・ 設備交換
 ・ 施設改修
 ・ 装備更新
 ・ 教育・訓練
 などを記載してください。

「次へ>>」ボタンを押して「号情報の入力」ページへ移動

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

死傷事故に関する情報を入力します。

死傷の種類 **必須**

① 死亡

- 感電による死亡 人
- 感電以外による死亡 人
- 合計 人

死亡合計内訳

※この枠内の項目は直接編集はできません。後続の必須入力項目を全て埋めることで、自動で内訳が集計されます。

- 感電による死亡
 作業員(従業員) 人 作業員(その他) 人 公衆 人
- 感電以外による死亡
 作業員(従業員) 人 作業員(その他) 人 公衆 人

② 負傷(入院あり)

- 感電による負傷 人
- 感電以外による負傷 人
- 合計 人

負傷合計内訳

※この枠内の項目は直接編集はできません。後続の必須入力項目を全て埋めることで、自動で内訳が集計されます。

- 感電による負傷
 作業員(従業員) 人 作業員(その他) 人 公衆 人
- 感電以外による負傷
 作業員(従業員) 人 作業員(その他) 人 公衆 人

③ 負傷(入院なし) 人

・被害に遭われた方の人数を死傷内容に応じて記載ください。
 ・評価の対象となる死傷の程度は①と②に該当する方です。

- ◆ 死亡者の人数を、
 ①死亡欄 部分に
 死因別に入力してください。
 - ◆ 負傷者(入院以上)の人数を、
 ②負傷欄(入院あり) 部分に
 原因別に入力してください。
 - ◆ 負傷者(入院等なし)の人数を、
 ③負傷欄(入院なし) 部分に入力してください。
- 死亡合計内訳及び負傷合計内訳は次ページ以降の内容を入力すると自動で反映されます。
- ただし、①+②の人数が6名以上の場合は手動で内訳を入力する必要があります。

(参考) 死傷者が6名以上の場合の入力方法

死傷の種類 **必須** ①死亡

- 感電による死亡
- 感電以外による死亡

合計 5人

死亡合計内訳

※この枠内の項目は直接編集はできません。後続の必須入力項目を全て埋めることで、自動で内訳が集計されます。

- 感電による死亡
 - 作業員(従業者) 4人
 - 作業員(その他) 0人
 - 公衆 0人
- 感電以外による死亡
 - 作業員(従業者) 0人
 - 作業員(その他) 1人
 - 公衆 0人

②負傷(入院あり)

- 感電による負傷
- 感電以外による負傷

合計 2人

負傷合計内訳

※この枠内の項目は直接編集はできません。後続の必須入力項目を全て埋めることで、自動で内訳が集計されます。

- 感電による負傷
 - 作業員(従業者) 0人
 - 作業員(その他) 1人
 - 公衆 0人
- 感電以外による負傷
 - 作業員(従業者) 1人
 - 作業員(その他) 0人
 - 公衆 0人

③負傷(入院なし) 1人

① + ②の人数が6名以上の場合は手動で内訳を入力する必要があります。

まずは死亡、負傷(入院あり)、負傷(入院なし)の人数を [] 部分にご記載いただき、その後 [] 内の「死亡合計内訳」及び「負傷合計内訳」の人数を記載ください。

なお、以降の死傷者情報の詳細入力については、本システムでは最大5名までの入力となっています。死傷者が6名を超える場合、被害の程度が大きい死傷者から順に5名を登録いただき、記載出来なかった死傷者情報については別途資料で被害状況をまとめていただき添付資料としてご用意いただくか、「様式13入力」ページの「事故発生時の経緯備考」及び「その他」項目等に記載ください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

原因分類 **必須** 原因分類: 感電(作業員) 小分類: 作業方法不良

死傷者情報

死傷者番号: 1 最も被害の程度が大きい死傷者である

原因分類 **必須** 原因分類: 感電(作業員) 小分類: 被害者の過失

死傷者情報

死傷者番号: 1 最も被害の程度が大きい死傷者である 過失をした被害者である

◆死傷者の原因、事故内容等を対象者別に入力

①入力した被害者のうち「最も被害の程度が大きい死傷者」にチェックを入れてください。

②原因分類の小分類が「被害者の過失」となっている場合は、入力した被害者のうち「過失をした被害者」にチェックを入れてください。 ※①②両方が同時にチェックが入る場合もあります。

③ 死傷者情報は最大5名まで追加可能 (6名以上の場合は、被害の程度が大きい死傷者の情報を入れてください。)

④具体的な負傷の程度、被害部位や感電経路について記載してください。被害箇所が複数の場合、複数箇所について記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

属性

区分 **必須** 感電(作業者)その他
死傷者の区分を選択してください。

性別 **必須** 男 女 不明

年齢 **必須** 70歳 不明

職業 **必須** 作業員 不明

経験年数 年 不明
死傷者の区分が「作業者」の場合は必ず記載ください。被災者が当該職務に就いてからの年数を記載ください。

事故発生現場経験年数 年 不明
死傷者の区分が「作業者」の場合は必ず記載ください。被災者の被災場所での作業経験年数を記載ください。

所属組織名 **必須** 北海道産業保安株式会社

部署名 電気設備室

主任技術者の資格の有無 **必須** 有 無 不明

主任技術者の資格 第三種電気主任技術者
資格の有無で「有」を選択した場合は必ず記載ください。

備考

電気工事士の資格の有無 **必須** 有 無 不明

電気工事士の資格の種類 第一種 第二種 特種 認定 不明
資格の有無で「有」を選択した場合は必ず記載ください。

備考

職業が作業者の場合は経験年数も記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

作業内容 **必須** 電気工作物の銘板確認

作業内容備考 変圧器のPCB含有量調査のための銘板確認

作業内容が「その他」の場合は必ず記載ください。

安全装備

ヘルメット 有 無 不明

絶縁帽 有 無 不明

絶縁手袋(高圧) 有(右 左) 無 不明

絶縁手袋(低圧) 有(右 左) 無 不明

絶縁衣 有 無 不明

絶縁ゴム靴(高圧) 有(右 左) 無 不明

絶縁ゴム靴(低圧) 有(右 左) 無 不明

安全靴 有 無 不明

その他の装備 作業着、安全靴、安全用手袋(皮手袋)

区分で作業者を選択した場合は必ず選択してください。

点検作業中だったのか
 清掃作業中だったのか
 銘板確認中だったのか
 等を記載してください。

安全装備の装着状況を選択してください。

死亡又は負傷(入院有り)した者が複数名の場合は、同様に複数名分の死傷者情報を入力してください。(最大5名まで)

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

原因

事故原因詳細

事故原因詳細 (最大2048文字) **必須**

事故発生電気工作物の詳細

電気工作物設定 **(ここをクリック)**

名称 計器用変成器 (VT)

1 階層 需要設備 (高圧) ※特別高圧を含む

2 階層 変成器

3 階層 計器用変成器 (VT)

4 階層

5 階層

6 階層

その他VT

電気工作物の
種類、欠陥、不良状況
(最大1024文字)

原因分類が「電気工作物不良」「電気工作物の欠陥」「電気工作物の破壊」の場合は必ず記載してください。

更に電気工作物を追加します

死傷事故に至った原因の詳細を記載してください。

[電気工作物設定 (ここをクリック)] ボタンを押して、死傷事故の原因となった電気工作物の詳細情報を記載してください。

※詳細は「電気工作物情報の入力」画面 (次ページから説明) で入力します。

事故発生原因に複数の工作物が起因している場合はチェックをしてください。

※ 5つまで登録可能です。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

(1)仕様

電気工作物名 **必須** 計器用変成器 (VT)

電気工作物

1 階層 需要設備 (高圧) ※特別高圧を含む

2 階層 変成器

3 階層 計器用変成器 (VT)

4 階層

5 階層

6 階層

その他 VT

製品仕様

メーカー名 VT製造株式会社

製品名 VT

型式 VT001

設置年月 年 月

使用期間 年 月 **使用期間自動計算**

使用期間自動計算機能の利用には、事故発生年月日と設置年月両方の入力が必要です。

製造年月 年 月

設置年月、使用期間、製造年月が不明の場合は、その他製品仕様1~3にその旨を記載ください。

定格電圧 V

定格電流 20 A

変電電圧 1次 V 2次 V

使用電圧・受電電圧 6600 V

その他製品仕様1 2次側 110V

その他製品仕様2

その他製品仕様3

工作物の名称は必須です。

・電気工作物については、プルダウンメニューで選択します。
※プルダウンメニューから選択することで、「区分開閉器、負荷開閉器、PAS」など同じ電気工作物を統一名にしています。

任意で使用年数、型式、製品仕様などを記載します。

※「号の選択」ページで事故発生年月日を入力しており、「設置年月」が入力されている場合、**[使用期間自動計算]** ボタンを押すと「使用期間」を自動で計算して入力することが可能です。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - **電気工作物情報の入力** > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

電気工作物の設置場所について記載してください。
※事業所名、設置場所は必須入力となっています。

添付資料として点検記録を報告書に付して頂くか、
(3)点検状況に年次点検や月次点検の記録を記載してください。

入力が完了したら「次へ>>」ボタンを押すことで、
電気工作物が登録され、「号情報の入力」のページへ戻ります。

(参考)2つ以上の電気工作物を登録する場合

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - **電気工作物情報の入力** > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

この画面は[死傷者1人目の1]の電気工作物を設定する画面です。

名称	計器用変成器 (VT)	2 階層	変成器
1 階層	需要設備 (高圧) ※特別高圧を含む	4 階層	-
3 階層	計器用変成器 (VT)	6 階層	-
5 階層	-		
その他	VT		

上の電気工作物との紐付けを取り消す

この情報の全ての電気工作物との紐付けを取り消す

・該当する電気工作物が下のリストに有る場合にはリストより選択し、「リストより選択ボタン」をクリックしてください。
・電気工作物登録内容を変更して紐付けする場合にはリストより選択して「リストより選択し内容を変更」をクリックしてください。
・該当する電気工作物がリストに存在しない場合には「新規ボタン」をクリックしてください。

選択	名称	分類
<input type="radio"/>	計器用変成器 (VT)	変成器 計器用変成器 (VT)

新規

リストより選択

リストより選択し内容を変更

電気工作物の削除

戻る

※2つ以上の電気工作物を登録する場合や、すでに登録されている電気工作物を再編集する場合は、左のページが表示されます。

現在の電気工作物の登録を解除したい場合は上段のボタン、全ての電気工作物の登録状況を解除したい場合は下段のボタンを押してください。
(ボタンを押しても電気工作物の情報は下記のリストに残ります。完全削除する場合は工作物を選択して「電気工作物の削除」ボタンを押してください。)

新しく電気工作物を登録したい場合は「新規」を選択してください。

既に登録している電気工作物を設定したい場合は、上部リストの“○”を選択した後に「リストより選択」を選択してください。

既に登録している電気工作物の内容を編集したい場合は上部リストの“○”を選択した後に「リストより選択し内容を変更」を選択してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

死傷の原因となった電気工作物 **必須** 計器用変成器 (VT)

感電死傷した充電部の電圧 不明 6600 V

死傷状況で「感電による死亡」「感電による負傷」を選択している場合には、必ず記載ください。

感電死傷した充電部の保護状況 (最大512文字)

不明
絶縁用防具は設置されていなかった。

被災者が感電している場合には、必ず触れた充電部の保護状況について記載ください。

アーク発生の原因となった操作 (最大512文字)

死傷状況で「アークによる火傷」を選択している場合には、必ずアーク発生の原因となった操作について記載ください。

全ての電気工作物について入力した後、死傷事故の原因となった工作物をプルダウンから選択してください。

充電部接触による感電事故の場合は、触れてしまった充電部の状況を記載してください。

アーク発生に伴うやけどの場合は、アーク発生の原因となった操作状況などを記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

主任技術者からの助言・定期点検結果の把握

①点検結果の把握 毎月点検 毎年度点検 不明

②点検結果に基づいて主任技術者から説明を受けましたか?

※定期点検内容について、簡潔、口語もしくは要旨による説明を受けていた。
 定期点検結果を、要旨による説明は受けていた。
 定期点検結果では、簡潔は認められなかった。
 その他
 定期検査の結果報告に於いて、全く受けていなかった。
 その他

③主任技術者より職務の範囲や職務の交換を推奨されていたか?

推奨された内容

④主任技術者より助言・要旨の簡潔な報告・簡潔な受け取りと関係する交換を推奨された理由(複数選択可)

今後、仕事を待つ予定はなかった。
 予期した通り、仕事の予定はなかった。
 働いてから交換する予定であった。
 職務の範囲で、要旨は認められなかった。
 今まで問題なかったため交換の予定はなかった
 その他

⑤備考

作業手順・作業準備・安全確保対策・安全教育

①被害者が「作業者」の場合

作業の都合の都合(作業の都合はどのようにやったのか)

作業の都合を要旨。

作業の都合(作業の都合はどのようにしているのか)

主任技術者の指示による作業手順を要旨。

作業手順や安全確保対策の概要
(作業手順や安全確保対策(充電部はどのような状況だったのか)はどのようにしたのか)
(4桁、作業手順や安全確保対策が守られなかったのか)

マニュアルは取扱説明書、主任技術者が関係
満足な点検作業に対しての報告がなかった。

②被害者に対する教育訓練の概要(作業員に対する安全教育はどのようにやっていたのか)

実施時期、回数
主任技術者による社内研修の実施、年1回

実施内容
事故事例による危険予知の研修

その他

③被害者が「公衆」の場合

第三者が充電部に近づこうとするための対策
(第三者が充電部に近づこうとすることを防ぐための方法はどうなっているのか)

その他

主任技術者からの助言・定期点検結果の把握、作業手順・作業準備・安全確保対策・安全教育について入力します。
 ※死傷事故については、作業手順や教育について記載してください。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

再発防止対策

再発防止対策 (最大4096文字) **必須**

- ① 予定外の作業は行わないことを徹底する。
- ② 作業を行う場合には、作業手順書を作成し尊重することを徹底する。
- ③ 充電部への近接作業は原則として行わない。
やむを得ず充電部への近接作業を行う場合には、必ず安全な保護具の着用を徹底する。
- ④ 電気設備の危険性についての保安教育を保安業務外部委託先に実施させる。
- ⑤ 点検時には必ず防護服（絶縁上着）の着用を徹底する。
- ⑥ 危険余地訓練（KY）を実施し、現場で指差呼称安全確認ができるように徹底する。

(再発防止対策)
感電死傷事故に関連して、事故の未然防止や被害の拡大防止のために実施（実施時期を含む）又は計画（実施予定時期を含む）した再発防止対策について記載してください。

事故の発生や被害の拡大を防ぐための防止対策を入力してください。

入力完了後、「次へ>>」ボタンを押して「様式13総括入力」ページへ移動

注意点

事故原因の調査中などの理由により、再発防止対策が策定できない場合は、「検討中」と記載することも可能です。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > **様式13総括入力** > 資料選択、提出

■電気関係報告規則の該当する号が1つの場合は、事故発生原因や再発防止対策などの内容を写してください。（各項目にある写すボタンを押し、内容をコピーしてください。）

■複数の号の場合は、当該事故の総合的な内容を事故発生原因や再発防止対策などの項目ごとに、当該事故の総合的な内容を取りまとめたものを入力してください。

事故原因分類 **必須** 大分類: 故意・過失 小分類: 作業者の過失

各号事故詳細

[1号・事故原因分類] [大分類]感電(作業物) [小分類]作業準備不良

[1号・事故原因詳細]

① 予定外の絶縁確認調査を行ったため。
② 充電中にもかかわらず服装は（ヘルメット、皮手袋、安全靴）の状態、防護具を着用せず接近作業を行った。
③ 周囲に高圧があることは検電器で確認していたが、作業者の不注意により充電部に触れてしまった。

転写 + 必要に応じて事故原因詳細を追記

各号事故原因詳細を事故原因詳細に写す

事故原因詳細 (最大6144文字) **必須**

[1号・事故原因分類] [大分類]感電(作業物) [小分類]作業準備不良

[1号・事故原因詳細]

① 予定外の絶縁確認調査を行ったため。
② 充電中にもかかわらず服装は（ヘルメット、皮手袋、安全靴）の状態、防護具を着用せず接近作業を行った。
③ 周囲に高圧があることは検電器で確認していたが、作業者の不注意により充電部に触れてしまった。

様式13 様式13 (第3条関係) 電気関係事故報告

1. 件名: 絶縁調査作業中に発生した作業者感電負傷事故 (第1号)

2. 報告事業者
1) 事業者名: 製品評価技術株式会社 代表取締役社長 東京都 太郎
2) 住所: 東京都渋谷区西原2-49-10

3. 発生日時: 2023年2月15日(水) 14時00分頃

4. 事故発生の電気工作物:
(第1号)
事故発生の電気工作物: 計器用変成器 (VT)
使用電圧: 6,600V
製造事業者: VT製造株式会社
製造年月: 年月
設置年月: 年月(使用期間0ヶ月)
設置場所(住所): 北海道札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎
設置場所(名称): 北海道事業所
事業場の受電電圧: 6.6kV

5. 状況: 別紙のとおり

6. 原因: 大分類-故意・過失 小分類-作業者の過失

[1号・事故原因分類]

[大分類]感電(作業物) [小分類]作業準備不良

[1号・事故原因詳細]

① 予定外の絶縁確認調査を行ったため。
② 充電中にもかかわらず服装は（ヘルメット、皮手袋、安全靴）の状態、防護具を着用せず接近作業を行った。
③ 周囲に高圧があることは検電器で確認していたが、作業者の不注意により充電部に触れてしまった。

7. 被害状況:

◆各号の再発防止対策まで入力完了すると、事故原因、被害状況、再発防止対策の統合を行うページが表示されます。

※特に内容の追記が無い場合は、**[各号事故原因詳細を事故原因詳細に写す]**を押すだけで問題ありません。

◆複数の号が該当する事故の場合は、発生した事故全体として総合的に何が原因であったかを記載してください。
様式13「6.原因」に記載内容が反映されます。

◆1つの号のみの場合であっても転写内容のほか、事故発生原因に追記が必要な場合は記載してください。
様式13「6.原因」に記載内容が反映されます。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > **様式13総括入力** > 資料選択、提出

各号被害状況内容

[1号]
 死亡作業者(従業員)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 死亡作業者(その他)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 死亡公衆人数 感電(感電以外): 0(0)人
 負傷作業者(従業員)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 負傷作業者(その他)人数 感電(感電以外): 1(0)人
 負傷公衆人数 感電(感電以外): 0(0)人

転写 + 必要に応じ被害状況内容を追記

各号被害状況内容を被害状況内容に写す

被害状況内容
(最大6144文字)

[1号]
 死亡作業者(従業員)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 死亡作業者(その他)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 死亡公衆人数 感電(感電以外): 0(0)人
 負傷作業者(従業員)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 負傷作業者(その他)人数 感電(感電以外): 1(0)人
 負傷公衆人数 感電(感電以外): 0(0)人

様式 1 3

6.原因: 大分類:故意・過失 小分類:作業者の過失
 [1号・事故原因分類]
 [大分類]感電(作業者) [小分類]作業準備不良
 [1号・事故原因詳細]
 ①予定外の踏板確認調査を行ったため。
 ②充電中にもかかわらず服装は(ヘルメット、皮手袋、安全靴)の状態で、防護具を着用せず接近作業を行った。
 ③周囲に高圧があることは検電器で確認していたが、作業者の不注意により充電部に触れてしまった。

7.被害状況:
 [1号]
 死亡作業者(従業員)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 死亡作業者(その他)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 死亡公衆人数 感電(感電以外): 0(0)人
 負傷作業者(従業員)人数 感電(感電以外): 0(0)人
 負傷作業者(その他)人数 感電(感電以外): 1(0)人
 負傷公衆人数 感電(感電以外): 0(0)人

1) 死傷: 有
 内容: 別紙のとおり

2) 火災: 無
 内容:

3) 発電支障: 無
 内容:

4) 供給支障: 無
 内容:

5) その他(上記以外の他に及ぼした障害)
 内容:

8.復旧日時: 2023年2月15日14時20分実施済

9.再発防止対策:

- ※被害状況内容についても、特に追記が無い場合は「各号被害状況内容を被害状況内容に写す」を押すだけで問題ありません。
- ◆複数の号が該当する事故の場合は、各号の被害状況の入力情報が表示されますので、当該事故の総合的な内容を取りまとめたものを入力してください。様式13「7.被害状況」に内容が反映されます。
- ◆1つの号のみの場合であっても転写内容のほかに、被害状況に追記が必要な場合は記載してください。様式13「7.被害状況」に内容が反映されます。

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > **様式13総括入力** > 資料選択、提出

各号再発防止対策

[1号]
 ①予定外の作業は行わないことを徹底する。
 ②作業を行う場合には、作業手順書を作成し尊重することを徹底する。
 ③充電部への近接作業は原則として行わない。
 やむを得ず充電部への近接作業を行う場合には、必ず安全な保護具の着用を徹底する。
 ④電気設備の危険性についての保安教育を保安業務外部委託先に実施させる。
 ⑤点検時には必ず防護服(絶縁上着)の着用を徹底する。
 ⑥危険余地訓練(KY)を実施し、現場で指差呼称安全確認ができるように徹底する。

転写 + 必要に応じ再発防止対策詳細を追記

各号再発防止対策を再発防止対策に写す

再発防止対策
(最大13000 必須文字)

[1号]
 ①予定外の作業は行わないことを徹底する。
 ②作業を行う場合には、作業手順書を作成し尊重することを徹底する。
 ③充電部への近接作業は原則として行わない。
 やむを得ず充電部への近接作業を行う場合には、必ず安全な保護具の着用を徹底する。
 ④電気設備の危険性についての保安教育を保安業務外部委託先に実施させる。
 ⑤点検時には必ず防護服(絶縁上着)の着用を徹底する。
 ⑥危険余地訓練(KY)を実施し、現場で指差呼称安全確認ができるように徹底する。

様式 1 3

8.復旧日時: 2023年2月15日14時20分実施済

9.再発防止対策:
 [1号]
 ①予定外の作業は行わないことを徹底する。
 ②作業を行う場合には、作業手順書を作成し尊重することを徹底する。
 ③充電部への近接作業は原則として行わない。
 やむを得ず充電部への近接作業を行う場合には、必ず安全な保護具の着用を徹底する。
 ④電気設備の危険性についての保安教育を保安業務外部委託先に実施させる。
 ⑤点検時には必ず防護服(絶縁上着)の着用を徹底する。
 ⑥危険余地訓練(KY)を実施し、現場で指差呼称安全確認ができるように徹底する。☑

10.主任技術者の氏名及び所属(保安管理業務外部委託承認がある場合は、委託先情報):
 北海道 太郎(電気主任技術者 第三種 番号: 01-12345)
 自社選任 所属 北海道事業所 電気設備課長

11.電気工作物の設置者の確認:有

- ※再発防止対策についても、特に追記が無い場合は「各号再発防止対策を再発防止対策に写す」を押すだけで問題ございません。
- ◆複数の号が該当する事故の場合は、発生した事故全体として総合的に行った再発防止対策について記載してください。様式13「9.再発防止対策」に内容は反映されます。
- ◆1つの号のみの場合であっても転写内容のほかに、再発防止対策に追記が必要な場合は記載してください。様式13「9.再発防止対策」に内容は反映されます。

①事業用詳細:1号(感電死傷事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > **様式13総括入力** > 資料選択、提出

詳細に添付する書類に該当するものがあれば
チェックボックスにチェックをしてください。

また、チェックボックス以外の書類や、添付した
書類名の記載が必要な場合は、添付書類の欄に記
載をしてください。

注意点

詳細入力後は必ず**詳細PDF・XMLファイル**
お使いのパソコン・スマホに保存してください。
詳細作成支援システム内には入力データは保存されません。

- 入力内容に問題がない場合、これで詳細の入力作業は終了です。
引き続き、以下の作業を実施します。
- ・ 詳細PDF・XMLファイルのダウンロード
 - ・ 写真PDFの作成
 - ・ 別添資料（単線結線図等）の添付
 - ・ 産業保安監督部へのメール提出
- ⇒「④作成した詳細のメール報告方法」にてご説明します。

①事業用詳細:1号(感電死傷事故)の詳細PDFファイル一覧(1/5)

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の詳報PDFファイル一覧(2/5)

様式13 (第3条関係) 電気関係事故報告

5) その他(上記以外の他に及ぼした障害)
内容:

8. 復旧日時: 2023年2月15日14時20分実施済

9. 再発防止対策:
[1号]
①予定外の作業は行わないことを徹底する。
②作業を行う場合には、作業手順書を作成し尊重することを徹底する。
③充電部への近接作業は原則として行わない。
やむを得ず充電部への近接作業を行う場合には、必ず安全な保護具の着用を徹底する。

④電気設備の危険性についての保安教育を保安業務外部委託先に実施させる。
⑤点検時には必ず防護服(絶縁上着)の着用を徹底する。
⑥危険余地訓練(KY)を実施し、現場で指差呼称安全確認ができるように徹底する。☑

10. 主任技術者の氏名及び所属(保安業務外部委託承認がある場合は、委託先情報):
北海道 太郎(電気主任技術者 第三種 番号:01-12345)
自社選任 所属 北海道事業所 電気設備課長

11. 電気工作物の設置者の確認:有

2/8

様式13別紙 電気関係事故報告

5.状況
(1)事故発生時の状況
①気象 晴れ
②発電状況 記載なし
③負荷状況 記載なし
④電力潮流 記載なし
⑤関係電気工作物の施設状況 記載なし
⑥保守点検の状況 記載なし
⑦運転の状況 記載なし

⑧作業の状況
月次点検作業実施。
月次点検作業終了後、予定外の鉄板確認作業を実施。
⑨その他 記載なし

(2)事故発生時の経緯
①事故発生時の経緯
2023年2月15日
作業員A(被害者)、作業員B、作業員Cの3名で月次点検作業実施。
2023年2月15日 14:00
月次点検作業終了後、変圧器のPCB含有率調査の為、変圧器の鉄板を撮影しようとしたとき、計器用変成器(VT)の高圧ヒューズ部に作業員Aの左腕が触れ感電した。
(続き)
感電した際に、地絡し、高圧気中開閉器が作動し、社内が停電した。
同日 14:05
停電に気付いた作業員Bが被害者を発見し、救急連絡をした。
同日 14:20
作業員Cは、電気設備の点検を実施し、異常がなかったことから、高圧気中開閉器を投入し受電を再開した。
[事故発生時の経緯 備考]
記載なし
[その他]
記載なし
②電気工作物の被害の程度:
(3)応急処置

3/8

①事業用詳報:1号(感電死傷事故)の詳報PDFファイル一覧(3/5)

電気関係事故報告

2023年2月15日 14:05
停電に気付いた作業員Bが被害者を発見し、救急連絡をした。

(4)復旧作業
2023年2月15日 14:20 復旧
作業員Cは、電気設備の点検を実施し、異常がなかったことから、高圧気中開閉器を投入し受電を再開した。
添付書類:
単線結線図 診断書 その他 (1)使用区域平面図
(2)単線結線図
(3)作業状況図
(4)感電負傷箇所
(5)診断書

4/8

別紙1 電気関係事故報告

1. 死傷者数:1人 入院無傷者数:0人
乗員者数内訳表 (人)

	感電		感電以外	
	死	負傷	死	負傷
作業員(従業員)	0	0	0	0
作業員(その他)	0	1	0	0
公衆	0	0	0	0

2. 再発防止対策
①予定外の作業は行わないことを徹底する。
②作業を行う場合には、作業手順書を作成し尊重することを徹底する。
③充電部への近接作業は原則として行わない。
やむを得ず充電部への近接作業を行う場合には、必ず安全な保護具の着用を徹底する。

④電気設備の危険性についての保安教育を保安業務外部委託先に実施させる。
⑤点検時には必ず防護服(絶縁上着)の着用を徹底する。
⑥危険余地訓練(KY)を実施し、現場で指差呼称安全確認ができるように徹底する。

3. 保守点検
定期点検:月次、年次
定期点検内容について主任技術者から説明を受けていたが
説明済、定期点検結果では、問題は認められなかった
主任技術者より機部の設置や電線の交換を推奨されていたか、
主任技術者より事故に至る可能性の報告、助言を受けていたにも関わらず交換等を実施しなかった理由:
備考:
作業手順・作業準備・安全確保対策・安全教育(作業員について)
作業前の打合せの概要
TBM及びKYを実施。
作業分担の概要
主任技術者の指示による作業分担を実施。
作業手順や安全確保対策の概要
キュービクルは施設管理、主任技術者が開放
高圧活線近接作業に対する危険意識が低かった。
作業員に対する教育訓練の概要(実施頻度)
主任技術者による社内研修の実施、年1回
作業員に対する教育訓練の概要(実施内容)
事故事例による危険予知の研修
その他

5/8

電気工作物情報	電気関係事故報告
1. 電気工作物の概要	
(1)電気工作物	
[名称]	
計器用変成器 (VT)	
[種類(1階層)]: 需要設備 (高圧)	
[種類(2階層)]: 変成器	
[種類(3階層)]: 計器用変成器 (VT)	
[種類(その他)]: VT	
(2)電気工作物の仕様	
[製造事業者]: VT製造株式会社	
[製品名]: VT	
[型式]: VT001	
[設置年月]:	
[使用期間]: 0ヶ月	
[製造年月]:	
[定格電圧]: V	
[定格電流]: 20A	
[変電電圧1次]: V	
[変電電圧2次]: V	
[使用電圧・受電電圧]: 0.600V	
[その他製品仕様1]: 2次側 110V	
[その他製品仕様2]:	
[その他製品仕様3]:	
(3)設置場所	
[住所]: 北海道札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎	
[場所]: 北海道事業所	
[詳細]:	
(4)点検状況	
[定期点検]: 有 直近点検日:2023年1月31日	
[点検結果]	
異常なし	
[月次定期点検]:	

死者情報	電気関係事故報告
[死者番号]: 1 (最も被害の程度が大きい死者)	
[詳細に記載された名称]	
作業者	
[死傷状況]: 感電による負傷	
[死傷場所]: 需要設備(高圧)	
[死傷場所詳細]	
計器用変成器 (VT) の高圧ヒューズ部	
[被害内容詳細]	
左側部及び左太腿付近に火傷を伴う感電	
感電経路	
計器用変成器 (VT) の高圧ヒューズ部→左上臂→左太腿→トランスの外枠 (放熱板)	
[被害内容1(被害状況)]: 電撃傷	
[被害内容2(被害部位)]: 左肩	
[被害内容3(被害状況)]: 電撃傷	
[被害内容4(被害部位)]: 太腿左	
～感電	
[区分]: 感電(作業者)その他	
[性別]: 男	
[年齢]: 70歳	
[職業]: 作業員	
[経験年数]: 不明	
[事故発生現場経験]: 不明	
[所属組織名]	
北海道産業保安株式会社	
[部署名]	
電気設備室	
[主任技術者の資格の有無]: 有	
[主任技術者の資格]: 第三種電気主任技術者	
[主任技術者の資格備考]	
[電気工士の資格の有無]: 不明	
[電気工士の資格備考]	
[作業内容]: 電気工作物の点検確認	
[作業内容備考]	
変圧器のPCB含有量調査のための基板確認	
[安全装備]	
ヘルメット:有 絶縁靴:無 絶縁手袋(高圧):無	
絶縁手袋(低圧):無 絶縁衣:無 絶縁ゴム靴(高圧):無 絶縁ゴム靴(低圧):無	
安全靴:有	
[その他の安全装備]:作業着、安全靴、安全用手袋(皮手袋)	

電気関係事故報告
[原因分類]: 大分類: 感電(作業者) 小分類: 作業準備不良
[事故原因詳細]
①予定外の基板確認調査を行ったため。
②充電中にもかかわらず服装は(ヘルメット、皮手袋、安全靴)の状態で、防護員を着用せず接近作業を行った。
③周囲に高圧があることは検電器で確認していたが、作業者の不注意により充電部に触れてしまった。
[死傷の原因となった電気工作物]
計器用変成器 (VT)
(被害、欠陥、不良状況)
[死傷の原因となった電気工作物]: 計器用変成器 (VT)
[感電死傷した充電部の電圧]: 0.600V
[感電死傷した充電部の保護状況]
絶縁用防具は設置されていなかった。
[アーク発生の原因となった操作]

詳報の作成方法について

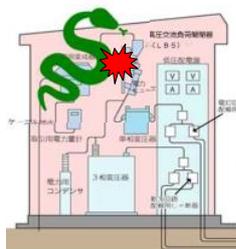
事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

39

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

事例② (12号:波及事故)

受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から進入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器(LBS) R相電源側の接続部分と高圧交流負荷開閉器ケースに接触し地絡し、高圧気中負荷開閉器(PAS)及び地絡方向継電器が不良のため動作せず、波及事故に至った。



【事前準備が必要な事項及び添付書類】

報告において必要な事項

- 1 次要因 地絡・短絡事故発生原因
- 2 次要因 波及事故に至った原因

その他添付書類

- ・使用区域平面図
- ・単線結線図
- ・保守点検記録 等

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力 - 電気工作物情報の入力** > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

他部分は事例1号詳報と同じ手順で作成が可能であるため、説明は省略します。
事例②は「号情報の入力 - 電気工作物情報の入力」のみ説明します。

40

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法 (参考)事故発生の経緯・応急処置並びに復旧作業

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

(2)事故発生時の経緯

事故の発生・拡大の電氣的及び時間的経緯、保護装置の動作状況、保安通信、給電連絡等の状況などを時系列で入力してください。

	日時	内容(200文字)
追加 削除	2023年2月15日 14:00	〇〇電力株式会社△△変電所□□線の地絡方向継電器動作により当工場が停電した。
追加 削除	(続き)	二直の電気担当者は電気主任技術者への停電の連絡を行い、指示に従って、工場内の危険箇所や構内第1柱の確認へ向かった。(責任分界点の高圧気中負荷開閉器は投入状態であった。)
追加 削除	同日 14:20	事故探査を行っていた〇〇電力(株)社員が到着し、波及事故であり、事故発生箇所は当工場内である可能性を示唆したため、電気担当者が構内第1柱の高圧気中負荷開閉器を解放した。
追加 削除	同日 14:32	当工場を除き、□□線は全線送電された。
追加 削除	同日 14:48	電気主任技術者が到着し、電気担当者とともに事故点を調査したところ、受電電気室内の主遮断器の高圧交流負荷開閉器(LBS)のR相電源側に蛇の死骸を発見し、取り除いた。
追加 削除	同日 18:10	受電電気室内の外壁破損部分を板により目張りし、他に異常の無いことを確認し、受電した。結果良好。

41

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法 (参考)事故発生の経緯・応急処置並びに復旧作業

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

(3)応急処置

2023年2月15日14:20 電気担当者が構内第1柱の高圧気中負荷開閉器を解放した。
同日14:32 当工場を除き、□□線は全線送電された。
同日18:10 受電電気室内の外壁破損部分を板により目張りし、他に異常の無いことを確認し、受電した。結果良好。

応急処置
(最大400文字)

(4)復旧作業

2023年2月16日13:30 受電電気室の外壁と内壁の破損箇所を修理した。
2月18日9:30 第1柱の高圧気中負荷開閉器(PAS)と地絡継電器を新品に交換し、受電した。

復旧作業
(最大400文字)

本復旧日時 必須 2023年02月18日09時30分 実施済 実施せず
未定 予定

仮復旧日時 2023年02月15日18時10分 実施済 実施せず
未定 予定

42

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

(波及事故要因区分)

※選択した波及事故要因によって、以降の入力内容が変化します。

波及事故要因区分

波及事故 要因区分	<input type="radio"/> 区分閉器の破損 区分閉器に破損があって、区分閉器が地絡又は短絡した場合
	<input type="radio"/> 区分閉器以外の破損 区分閉器以外の電気工作物に破損があって、その電気工作物が地絡又は短絡した場合
	<input type="radio"/> 区分閉器の誤操作等 区分閉器の誤操作や鳥獣接触等により区分閉器が地絡又は短絡したが、区分閉器に破損が認められなかった(※1)場合
	<input checked="" type="radio"/> 区分閉器以外の誤操作等 区分閉器以外の電気工作物の誤操作や鳥獣接触等により、その電気工作物が地絡又は短絡したが、その電気工作物に破損は認められなかった(※2)場合 (例) 高圧交流負荷開閉器(LBS)にネズミが接触して地絡したが、区分閉器が故障していたため動作せず波及事故となった

※1 区分閉器に破損が認められた場合は「区分閉器の破損」を選んでください。

※2 区分閉器以外の電気工作物に破損が認められた場合は「区分閉器以外の破損」を選んでください。

○区分閉器の破損

区分閉器に破損があって、区分閉器が地絡又は短絡した場合

○区分閉器以外の破損

区分閉器以外の電気工作物に破損があって、その電気工作物が地絡又は短絡した場合

○区分閉器の誤操作等

区分閉器の誤操作や鳥獣接触等により区分閉器が地絡又は短絡したが、区分閉器に破損が認められなかった(※1)場合

○区分閉器以外の誤操作等

区分閉器以外の電気工作物の誤操作や鳥獣接触等により、その電気工作物が地絡又は短絡したが、その電気工作物に破損は認められなかった(※2)場合
(例) 高圧交流負荷開閉器(LBS)にネズミが接触して地絡したが、区分閉器が故障していたため動作せず波及事故となった

※1 区分閉器に破損が認められた場合は「区分閉器の破損」を選んでください。

※2 区分閉器以外の電気工作物に破損が認められた場合は「区分閉器以外の破損」を選んでください。

43

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

区分閉器状況

区分閉器状況	無	: ○未設置
	有	: ●不動作 ○自動再閉路不成功 ○その他
	不明	: ○区分閉器の設置の有無が特定出来ない場合

波及事故に至った原因である区分閉器の状況を選択入力してください。

(区分閉器状況)

区分閉器以外の電気工作物において、地絡又は短絡した場合に表示されますので、この中から選択してください。(波及事故要因で「区分閉器の破損」及び「区分閉器の誤操作等」を選択した場合は表示されません。)

○区分閉器 無：未設置

出迎え方式の場合や責任分界点が保護機能の無い手動開閉器の場合。

○区分閉器 有：不動作

保護機能のある区分閉器が設置されているが区分閉器の故障、継電器の電源喪失、電力会社との保護協調不備などで区分閉器の開放動作がされなかった場合。

○区分閉器 有：自動再閉路不成功

区分閉器は正常動作したが、電力会社の事情(変電所の点検で再閉路しない設定であったなど)で再閉路されなかった場合。

○区分閉器 有：その他

○区分閉器状況 不明：区分閉器の設置の有無が特定できない場合

44

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

nito

自家用電気工作物により一般送配電業者又は特定送配業者に供給支障を発生させた事故被害状況

供給支障電力 839kW
供給支障事故が発生した場合において、電気の利用者に対し、電気の供給が停止し、又は電気の使用を制限する直前と直後と供給電力の差を入力してください。

供給支障電力詳細 (最大1024文字)
〇〇電力株式会社△△変電所□□線に波及。839kW。

供給支障電力に時間的な変化等がある場合に詳細を記載してください。

供給支障時間

事故発生日コピー

発生日時 2023年02月15日14時00分
供給事故が発生した年月日・日時を入力してください。

終了日時 2023年02月15日14時32分 □継続中
電気の供給の停止又は使用の制限が終了した年月日・日時を入力してください。

供給支障時間 32分
供給支障事故が発生した時から電気の供給の停止又は使用の制限が終了した時までの時間のごとで、発生日時と終了日時を入力することで自動入力されます。

[事故発生日コピー]ボタンを押すことで、発生日時に「号の選択」ページで入力した事故発生日をコピーできます。

45

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出

nito

供給支障時間詳細 (最大1024文字)
14:00に電力会社の地絡方向継電器が動作して停電し、14:32に当工場を除き、〇〇電力株式会社△△変電所□□線は全線送電された。

供給支障時間が複数の期間にわたる場合等に詳細を記載してください。

供給支障軒数 500軒
供給支障事故が発生した場合において、電気の供給が停止又は電気の使用を制限された電気の利用者の軒数を入力してください。

供給支障軒数詳細 (最大1024文字)
□□地区 ○○軒
△△△町 ○○○○軒
●●市■●地区 ○○○軒

供給支障先の状況を詳細に記載してください。

復旧状況(●●地区は何時何分復旧)など、その詳細について記載してください。

供給支障軒数が把握できている場合は記載してください。また、地区別の供給支障軒数が把握できている場合は詳細に記載してください。

46

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



波及事故要因区分：区分開閉器以外の誤操作等

地絡・短絡発生原因となった電気工作物の内容(最大2048文字)

受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器（LBS）R相電源側の接続部分と同開閉器ケースに接触したが、特に電気工作物に被害はなかった。

事故原因となった電気工作物(区分開閉器以外)の仕様と地絡・短絡発生箇所の情報を含めた誤操作の状況について詳細を記載してください。

地絡・短絡発生
の起因となった電気工作物

電気工作物設定 (ここをクリック)

名称	高圧交流負荷開閉器（LBS）
1階層	需要設備（高圧）※特別高圧を含む
2階層	開閉器類
3階層	高圧負荷開閉器
4階層	負荷開閉器（LBS）
5階層	-
6階層	-
その他	-

事故原因となった電気工作物(区分開閉器以外)の種類を選択してください。入力は「電気工作物設定」で行ってください。

他にも地絡・短絡発生
の起因となった電気工作物があります

(波及要因区分：区分開閉器以外の誤操作等)

地絡・短絡の発生要因となった電気工作物について入力します。

地絡・短絡した電気工作物の地絡・短絡発生箇所を含めた詳細状況を記載してください。

【電気工作物設定（ここをクリック）】

から電気工作物の詳細を記載してください。

- ・製品名称
- ・使用年数
- ・製造年月
- ・製造事業者名など

他にも地絡・短絡発生
の起因となった電気工作物がある場合は、チェックしてください。（5つまで登録可）

47

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



事故発生電気工作物以外の電気工作物被害

事故発生電気工作物以外の被害 **必須** 有 無

事故発生電気工作物以外の電気工作物における被害の有無を選択入力してください。

事故発生電気
工作物以外の被害
(最大2048文字)

構内第1柱の高圧気中負荷開閉器本体内部の不良及び地絡方向継電器の不動作が確認された。

事故発生電気工作物以外の電気工作物に被害があった場合、詳細を記載してください。

(事故発生電気工作物以外の電気工作物被害)

地絡・短絡した電気工作物以外に、波及事故に至った原因の電気工作物や地絡・短絡が発生したことにより被害を受けた電気工作物がある場合は記載してください。

48

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



地絡・短絡

原因分類 **必須** 大分類: 他物接触 小分類: 鳥獣接触

地絡・短絡発生の原因を大分類の項目の中から選択し、次に小分類の中からより詳細な原因を選択してください。

事故原因詳細

事故原因詳細 (最大2048文字) **必須**
受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LBS) R相電源側の接続部分と同開閉器ケースに接触し、地絡したものと推定される。

地絡・短絡事故に至った原因について記載してください。

地絡・短絡の発生の原因となった電気工作物の破損箇所と事故原因の詳細を記載してください。

再発防止対策

再発防止対策 (最大4096文字) **必須**
2月16日13:30に第2電気室の外壁と内壁ボードの破損箇所を修理した。

発生した地絡・短絡事故に対して行った再発防止措置について記載してください。

地絡・短絡発生事故について検討した結果、同種の事故の再発及び拡大を防止するために実施する対策を具体的に記載してください。

(事故原因詳細)

地絡・短絡が発生した要因 (1次要因) について記載してください。

原因分類は、以下に掲げる大分類を選択後、該当する小分類を選択してください。

- 「設備不備」
- 「保守不備」
- 「自然災害」
- 「故意・過失」
- 「他物接触」
- 「腐食」
- 「震動」
- 「他事故波及」
- 「燃料不良」

49

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



区分開閉器状況:区分開閉器不動作

不動作となった区分開閉器の状況(最大2048文字) **必須**

構内第1柱の高圧気中負荷開閉器が地絡により解放していなかったため、再度、地絡方向継電器の試験を実施したところ、継電器不動作であった。
2月16日にメーカー代替品に交換し再度試験をしたが、高圧気中負荷開閉器が動作しないため、同開閉器本体内部の不良を判断した。

波及事故原因となった電気工作物(区分開閉器)の不動作状況を詳細に記載してください。

区分開閉器 種類	区分開閉器設定 (ここをクリック)
名称	区分開閉器
1階層	需要設備 (高圧) ※特別高圧を含む
2階層	開閉器類
3階層	高圧区分負荷開閉器
4階層	柱上気中開閉器 (PAS)
5階層	-
6階層	-
その他	-

波及事故原因となった電気工作物(区分開閉器)の種類を選択してください。
入力は「区分開閉器設定」で行ってください。

(区分開閉器状況:区分開閉器不動作)

不動作であった区分開閉器の詳細情報を記載してください。

区分開閉器の動作確認をした内容や、解体し、内部確認をした内容など、区分開閉器が不動作であったことを確認した詳細情報を記載してください。

[区分開閉器設定 (ここをクリック)]

から不動作であった区分開閉器の詳細情報を記載してください。

- ・製品名称
- ・使用年数
- ・製造年月
- ・製造事業者名など

50

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



(区分別閉器を設置した際の詳細情報)

避雷器の設置、保護継電器の種類など、区分別閉器を設置した際に併せて設置したものについて記載してください。

区分別閉器内蔵の避雷器 (LA)の有無 **必須** 有 無 不明
 区分別閉器に避雷器が内蔵されているかどうかを選択入力してください。

区分別閉器内蔵形 避雷器(LA)の詳細 (最大2048文字)
 区分別閉器に内蔵された避雷器の詳細を記載してください。

避雷器の有無 **必須** 有 無 不明
 区分別閉器内蔵形避雷器以外の避雷器設置状況として、有・無を選択入力してください。

避雷器の詳細 (最大2048文字)
避雷器の設置箇所、構内第1柱なのか他の場所なのか等の詳細を記載してください。

避雷器の種類、仕様、及び設置位置の詳細を記載してください。

区分別閉器内蔵形制御電源用変圧器(VT)の有無 **必須** 有 無 不明
 区分別閉器に制御電源用の変圧器が内蔵されているかどうかを選択入力してください。

区分別閉器 制御電源の詳細 (最大2048文字)
内蔵型ではなくとも、区分別閉器を制御する機器の電源等について記載してください。

区分別閉器を制御する機器の電源について、仕様と高圧ケーブルへの接続位置の詳細を記載してください。

保護継電器 **必須** 有 無 不明
 保護継電器の設置有無を選択入力してください。

保護継電器種類 **必須** SOG(DGR) ←
 設置されている保護継電器の種類を選択入力してください。

保護継電器詳細 (最大2048文字) **必須**
 高圧気中負荷開閉器 (PAS) の地絡方向継電器を設置している。

設置されている保護継電器の種類、保護協調設定等の詳細を記載してください。

配線状況 **必須** 架空
 配線の施設状況を選択入力してください。

配線状況の詳細 (最大2048文字)
**架空
 架空 + 地下埋設
 地下
 その他**

ケーブルの配線状況として、配線方式及び配線施設環境(水漏れ等)の詳細を記載してください。

- SOG (GR)
- SOG (DGR)
- SOG (不明)
- AOG (GR)
- AOG (DGR)
- AOG (不明)
- GIS
- その他

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



(事故原因詳細 2)

波及事故に至った原因 (2次要因) について記載してください。

波及原因

波及原因分類 **必須** 大分類 区分別閉器不動作 小分類 その他 ←

波及事故の原因として、区分別閉器が不動作だった原因を大分類の項目の中から選択し、次に小分類の中からより詳細な原因を選択してください。

事故原因詳細

事故原因詳細 (最大2048文字) **必須**
 受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LBS) R相電源側の接続部分と高圧交流負荷開閉器ケースに接触し地絡し、高圧気中負荷開閉器 (PAS) 及び地絡方向継電器が不良のため動作せず、波及事故に至った。

波及事故の原因として、区分別閉器が不動作になった原因の詳細を記載してください。

- 区分別閉器誤投入・強制投入
- 保護協調不備
- 保護範囲外
- 保護継電器不良(内部異常)
- 保護継電器不良(電源異常)
- 保護継電器不良(電源回路開放)
- 保護継電器不良(電源喪失)
- 保護継電器不良(検出不可)
- 保護継電器不良(その他)
- 保護継電器未設置
- 開閉器不良(内部故障)
- 開閉器不良(事故で故障)
- 開閉器不良(その他)
- その他
- 不明

波及事故に至った原因の詳細を記載してください。

(当該ケース (区分別閉器不動作) 以外にも波及事故については、区分別閉器が破損していた場合や区分別閉器の誤操作により波及事故を発生させる場合もあります。当該項目には、波及事故に至った詳細について記載してください。)

②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



②事業用詳報:12号(波及事故)の入力方法

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > **号情報の入力** - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



発生した事故全体に対して実施した再発防止対策を記載してください。

1次要因(地絡・短絡発生原因)及び2次要因(波及事故に至った発生原因)に対し、実施した再発防止対策について記載してください。

入力完了後、「次へ>>」ボタンを押して「様式13総括入力」ページへ移動

注意点

事故原因の調査中などの理由により、再発防止対策が策定できない場合は、「検討中」と記載することも可能です。

※事例1号と同じ入力方法のため、以降のページは省略。

②事業用詳報: 12号(波及事故)の詳報PDFファイル一覧(1/5)



電気関係事故報告
2023年2月15日

関東東北産業保安監督部長 宛

〒151-0066
住所 東京都渋谷区西原2-49-10

名称 製品評価技術株式会社
役職 代表取締役社長

代表者の氏名 東京都 太郎

[白家用]
電気関係報告規則第3条の規定により、次のとおり電気事故について報告します。

様式13 (第3条関係) **電気関係事故報告**

1. 件名: ○○電力株式会社△変電所□線波及事故 (第12号)

2. 報告事業者
1) 事業者名: 製品評価技術株式会社 代表取締役社長 東京都 太郎
2) 住所: 東京都渋谷区西原2-49-10

3. 発生日時: 2023年2月15日(水) 14時00分頃

4. 事故発生の電気工作物:
(第12号)
事故発生の電気工作物: 高圧交流負荷開閉器 (LRS)
使用電圧: V
製造事業者:
製造年月: 年月
設置年月: 年月(使用期間0ヶ月)
設置場所(住所): 北海道札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎
設置場所(名称): 北海道事業所

(第12号)
事故発生の電気工作物: 区分開閉器
使用電圧: V
製造事業者:
製造年月: 年月
設置年月: 年月(使用期間0ヶ月)
設置場所(住所): 北海道札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎
設置場所(名称): 北海道事業所
事業場の受電電圧: 6.6kV

5. 状況: 別紙のとおり

6. 原因: 大分断-故意-過失 小分断-作業者の過失
[12号・事故原因詳細]
[大分断]区分開閉器不動作 [小分断]その他
[12号・地絡・短絡事故詳細]
受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した絶が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LRS) R相電源側の接続部分と同開閉器ケースに接触し、地絡したものと推定される。
[12号・事故原因詳細]
受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した絶が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LRS) R相電源側の接続部分と高圧交流負荷開閉器ケースに接触し地絡し、高圧気中負荷開閉器 (PAS) 及び地絡方向継電器が不良のため動作せず、波及事故に至った。

7. 被害状況:
[12号]
供給支障電力: 839kW
供給支障期間: 2023年2月15日14時0分～2023年2月15日14時32分(32分)

1/8

②事業用詳報: 12号(波及事故)の詳報PDFファイル一覧(2/5)



様式13 (第3条関係) **電気関係事故報告**

供給支障軒数: 500戸

1) 死傷: 無
内容:

2) 火災: 無
内容:

3) 停電支障: 無
内容:

4) 供給支障: 有 (供給支障電力839kW, 供給支障時間32分, 供給支障軒数500戸軒)
内容: 別紙のとおり

5) その他(上記以外の他に及ぼした障害)
内容:

8. 発生日時: 2023年2月18日9時30分実施済
(仮復旧日時)2023年2月15日18時10分実施済

9. 再発防止対策:
[12号]
2月16日13:30 受電電気室の外壁と内壁ボード破損箇所を修繕した。
2月18日9:30 第1柱の高圧気中負荷開閉器 (PAS) と地絡継電器を新品に交換し、受電した。

10. 主任技術者の氏名及び所属(保安管理業務外部委託承認がある場合は、委託先情報):
北海道 太郎(電気主任技術者 第三種 番号: 01-12345)
自社選任 所属 北海道事業所 電気設備課長

11. 電気工作物の設置者の確認: 有

2/8

様式13別紙 **電気関係事故報告**

5. 状況

(1) 事故発生前の状況

① 気象 晴れ

② 発電状況 記載なし

③ 負荷状況 記載なし

④ 電力潮流 記載なし

⑤ 関係電気工作物の施設状況 記載なし

⑥ 保守点検の状況 記載なし

⑦ 運転の状況 記載なし

⑧ 作業の状況
当日は、曇りであったが、当工場は通常通り受電し、特設異常は認められなかった。
⑨ その他 記載なし

(2) 事故発生時の経緯

① 事故発生時の経緯
2023年2月15日 14:00
○○電力株式会社△変電所□線地の地絡方向継電器動作により当工場が停電した。
(続き)
二直の電気担当者は電気主任技術者への停電の連絡を行い、指示に従って、工場内の危険箇所や構内第1柱の確認へ向かった。(責任分界点の高圧気中負荷開閉器は投入状態であった。)
同日 14:20
事故調査を行っていた○○電力(株)社員が到着し、波及事故であり、事故発生箇所は当工場内である可能性を示唆したため、電気担当者が構内第1柱の高圧気中負荷開閉器を解放した。
同日 14:32
当工場を歩き、□線は全線送電された。
同日 14:48
電気主任技術者が到着し、電気担当者とともに事故点を調査したところ、受電電気室内の主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LRS) のR相電源側に絶の死骸を発見し、取り除いた。
同日 18:10
受電電気室内の外壁破損部分を板により目張りし、他に異常の無いことを確認し、受電した。結果良好。

3/8

電気関係事故報告
<p>[事故発生の経緯 備考] 記載なし [その他] 記載なし</p> <p>受電気工作物の被害の程度: (3)応急処置 2023年2月15日14:20 電気担当者が構内第1柱の高圧気中負荷開閉器を解放した。 同日14:32 当工場を除き、□□線は全線送電された。 同日18:10 受電電気室内の外壁破損部分を板により目張りし、他に異常の無いことを確認し、受電した。結果良好。</p> <p>(4)復旧作業 2023年2月16日13:30 受電電気室の外壁と内壁の破損箇所を修理した。 2月18日9:30 第1柱の高圧気中負荷開閉器 (PAS) と地絡継電器を新品に交換し、受電した。 添付書類 単線結線図 保守点検記録 その他 (1)使用区域平面図 (2)単線結線図 (3)作業状況図 (4)保守点検記録</p>
4/8

別紙10 電気関係事故報告
<p>1. 被害状況</p> <p>1. 1. 供給支障電力: 839KW 1. 2. 供給支障電力詳細 ○○電力株式会社△△変電所□□線に波及、839KW。 1. 3. 供給支障期間: 2023年2月15日14時00分～2023年2月15日14時32分 (32分)</p> <p>1. 4. 供給支障期間詳細 14:00に電力会社の地絡方向継電器が動作して停電し、14:32に当工場を除き、○○電力株式会社△△変電所□□線は全線送電された。</p> <p>1. 5. 供給支障軒数: 500戸 1. 6. 供給支障軒数詳細 □□地区 ○□戸 △△地区 ○□□戸 ◎○市 ■■■地区 ○□□戸</p> <p>2. 波及事故原因区分: 区分閉閉器以外の誤操作等(自注電気工作物に被害なし)</p> <p>3. 波及事故原因区分 (詳細) [地絡: 短絡発生原因となった電気工作物 1] 高圧交流負荷開閉器 (LBS) [地絡: 短絡発生原因となった電気工作物の内容] 受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LBS) R相電源側の接続部分と同閉閉器ケースに接触したが、特に電気工作物に被害はなかった。</p> <p>4. 事故発生電気工作物以外の電気工作物の被害内容 4. 1. 事故発生電気工作物以外の被害: 有 4. 2. 事故発生電気工作物以外の被害内容 構内第1柱の高圧気中負荷開閉器本体内部の不良及び地絡方向継電器の不動作が確認された。</p> <p>5. 地絡・短絡 5. 1. 原因 [原因分類]: 大分類: 他物接触 小分類: 鳥獣接触 [事故原因] 受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LBS) R相電源側の接続部分と同閉閉器ケースに接触し、地絡したものと推定される。</p> <p>6. 再発防止対策 2月16日13:30に第2電気室の外壁と内壁ボードの破損箇所を修理した。</p> <p>7. 区分閉閉器状況: 有: 不動作 8. 区分閉閉器状況 (詳細) 8. 1. 区分閉閉器種類 区分閉閉器 構内第1柱の高圧気中負荷開閉器が地絡により解放しなかったため、再度、地絡方向</p>
5/8

電気関係事故報告
<p>継電器の試験を実施したところ、継電器不動作であった。 2月16日にメーカー代替品に交換し再度試験をしたが、高圧気中負荷開閉器が動作しないため、同閉閉器本体内部の不良を判断した。</p> <p>8. 2. 遮断器(LA)内蔵 [区分閉閉器内蔵形遮断器(LA)の有無]: 無</p> <p>8. 3. 遮断器 [遮断器の有無]: 無</p> <p>8. 4. VT(制御電源用変圧器)内蔵 [VT(制御電源用変圧器)内蔵の有無]: 無</p> <p>8. 5. 保護継電器 [保護継電器の有無]: 有 [保護継電器種類]: SOG(DGH) [保護継電器詳細] 高圧気中負荷開閉器 (PAS) の地絡方向継電器を設置している。</p> <p>8. 6. 配線状況 [配線状況]: 架空 [配線状況の詳細]:</p> <p>9. 波及原因 [原因分類] 大分類: 区分閉閉器不動作 小分類: その他 [事故原因詳細] 受電電気室の外壁と内壁ボードの一部に破損箇所があり、この隙間から侵入した蛇が、主遮断器の高圧交流負荷開閉器 (LBS) R相電源側の接続部分と高圧交流負荷開閉器ケースに接触し地絡し、高圧気中負荷開閉器 (PAS) 及び地絡方向継電器が不良のため動作せず、波及事故に至った。</p> <p>10. 再発防止対策 2月16日13:30 受電電気室の外壁と内壁ボード破損箇所を修理した。 2月18日9:30 第1柱の高圧気中負荷開閉器 (PAS) と地絡継電器を新品に交換し、受電した。</p> <p>11. 保守点検 定期点検: 定期点検内容について主任技術者から説明を受けていたか 主任技術者より機器の新設や機器の交換を推奨されていたか 主任技術者より事故に至る可能性の報告・助言を受けていたにも関わらず交換等を実施しなかった理由: 備考</p>
6/8

電気工作物情報 電気関係事故報告
<p>1. 電気工作物1の概要 (1)電気工作物 [名称] 高圧交流負荷開閉器 (LBS) [種類(1階層)]: 需要設備 (高圧) [種類(2階層)]: 開閉器類 [種類(3階層)]: 高圧負荷開閉器 [種類(4階層)]: 負荷開閉器 (LBS)</p> <p>(2)電気工作物の仕様 [製造事業者]: [製品名]: [型式]: [設置年月]: [使用期間]: 0ヶ月 [製造年月]: [定格電圧]: V [定格電流]: A [変電電圧1次]: V [変電電圧2次]: V [使用電圧・受電電圧]: V [その他製品仕様1]: [その他製品仕様2]: [その他製品仕様3]:</p> <p>(3)設置場所 [住所]: 北海道札幌市北区北8条5丁目 札幌第1合庁舎 [場所]: 北海道事業所 [詳細]:</p> <p>(4)点検状況 [定期点検]: 有 直近点検日 2023年1月31日 [点検結果] 異常なし [月次定期点検]:</p> <p>2. 電気工作物2の概要 (1)電気工作物 [名称] 区分閉閉器 [種類(1階層)]: 需要設備 (高圧) [種類(2階層)]: 開閉器類 [種類(3階層)]: 高圧区分負荷開閉器 [種類(4階層)]: 柱上気中開閉器 (PAS)</p> <p>(2)電気工作物の仕様</p>
7/8

電気関係事故報告

【製造事業者】:
【製品名】:
【型式】:
【設置年月】:
【使用期間】:0ヶ月
【製造年月】:
【定格電圧】:V
【定格電流】:A
【実電圧1次】:V
【実電圧2次】:V
【使用電圧・変電電圧】:V
【その他の製品仕様1】:
【その他の製品仕様2】:
【その他の製品仕様3】:
(3)設置場所
【住所】:北海道札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎
【場所】:北海道事業所
【詳細】:
(4)点検状況
【定期点検】:
【点検結果】:
【月次定期点検】:

8/8

詳報の作成方法について

事業用詳報:1号+12号(複合事故)の入力方法

事例③ (1号+12号)

高圧負荷開閉器 (LBS) がロック機能の不良により開放したため、ディスコン棒を用いて閉路した際に、誤って被害者が高圧負荷開閉器 (LBS) に接触して感電するとともに地絡したが、構内第1柱の高圧気中開閉器 (PAS) の地絡継電器が作動しなかったため、波及事故となった。

【事前準備が必要な事項及び添付書類】

報告において必要な事項

【死傷事故】

- 作業員情報
 - ・ 感電経路
 - ・ 事故時の安全装備状況
 - ・ 経験年数
 - ・ 安全教育
- 電気工作物情報
 - ・ 充電部の状態

【波及事故】

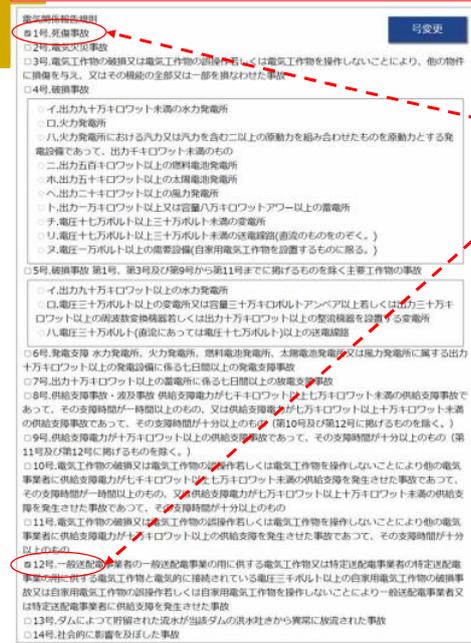
- 1 次要因 地絡・短絡事故発生原因
- 2 次要因 波及事故に至った原因

その他添付書類

- ・ 使用区域平面図
- ・ 単線結線図
- ・ 作業状況図
- ・ 感電負傷箇所
- ・ 診断書
- ・ 保守点検記録等

基本的な部分は、事例①、事例②と同じ手順で作成可能なため、事例③は、複合事故の場合で注意が必要な部分に絞って説明します。

報告先選択 > 報告者情報の入力 > 号の選択 > 様式13入力 > 号情報の入力 - 電気工作物情報の入力 > 様式13総括入力 > 資料選択、提出



事例③の場合は、1号と12号にチェック

- ※1号から14号までの該当する号にチェック。
- ※最大3つの号までは複数選択可。

「次へ>>」ボタンを押して「様式13入力」ページへ移動

「様式13入力」ページの入力後に「次へ>>」ボタンを押すと、複合事故専用のページに移動します。(次ページ参照)

③事業用詳報:1号+12号(複合事故)の入力方法

①報告先選択

提出先保安監督部の選択

②報告者情報の入力

設置者に関する内容入力

③号の選択

1号~14号のいずれかについて選択
(3つまでは複数選択可)

④様式13入力

原因及び再発防止対策以外の情報
について入力

⑤号情報の入力 - 電気工作物情報の入力

各号の詳細情報及び事故発生に
起因した電気工作物の情報入力

⑥様式13総括入力

原因及び再発防止対策の情報に
ついて入力
発生した事故の全体総括として
の情報入力

(1)①~④までは単独号と
同じ要領で入力

(2)「様式13入力」ページで
「次へ>>」を押すと右のページへ遷移する

(3)「1号入力」、「12号入力」ボタン
を押して各号毎に内容を入力

(4)全ての号に対し「号情報入力」を完了後、
「様式13総括入力」を入力して詳報作成が
完了します。
※作成完了後は必ず詳報XMLファイルを保
存してください。

The screenshot shows a vertical menu of buttons for navigating through the reporting process. From top to bottom, the buttons are: '報告先選択に戻る', '報告者入力に戻る', '号の選択に戻る', '様式13入力に戻る', '様式13入力項目', '1号入力', '12号入力', '12号入力項目', '様式13総括入力', '様式13総括入力項目', and '入力情報の保存 報告書のダウンロード'. A red dashed box highlights the '1号入力' and '12号入力' buttons, with arrows pointing to the corresponding steps in the text.

④作成した詳報のメール報告方法

詳細作成支援システムで作成した詳報ファイルは
システムを使ってそのまま監督部へメール報告が可能です。
報告手順は大きく分けて以下の4ステップとなります。

(1) ファイルの保存

(必須) 作成した詳報のXML、PDFをPC・スマホに保存。

(2) 写真PDFの作成

(任意) 必要に応じ、写真をアップロードしPDF形式に変換。

(3) 書類の添付

詳報ファイル以外に必要な書類を添付。

- ・作成した写真のPDF
- ・年次、月次等の定期点検の書類
- ・死傷事故については診断書の写し
- ・単線結線図
- ・その他

(4) 監督部へメールで提出

- ・XMLファイル (データベース用)
- ・PDFファイル (報告書)
- ・PDFファイル (写真)
- ・PDF等 (別紙、添付書類)

The screenshot shows a multi-step process for saving and reporting. Step 1: 'ファイルの保存' (File Saving) with instructions on saving XML and PDF files. Step 2: '写真PDFの作成' (Photo PDF Creation) with instructions on uploading photos and converting them to PDF. Step 3: '書類の添付' (Document Attachment) showing a list of documents to be attached, including '詳細情報' (Detailed Information) and '主任技師教育代埋報告書情報' (Supervisor Education Report Information). Step 4: '監督部へメールで提出' (Report via Email) with a '提出' (Submit) button.

作成した詳細のメール報告方法

65

④作成した詳細のメール報告方法 (1)ファイルの保存

入力完了後ページ

報告先選択に戻る

報告先選択項目

報告書入力に戻る

報告書入力項目

号の選択に戻る

号の選択項目

様式113入力に戻る

様式113入力項目

1.2号入力

1.2号入力項目

様式1.3総括入力

様式1.3総括入力項目

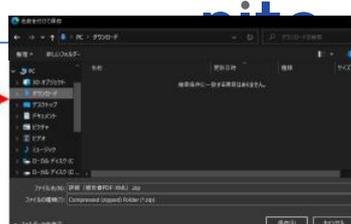
**入力情報の保存
報告書のダウンロード**

ダウンロードページ

入力内容確認ページに戻ります。
【入力終了のページではありません。】
ZIPファイルの保存は行いません。結果ページへ移動できません。

※報告書制作完了後にメール送信は完了済みです。
 ※下記のレポートは入力内容と関係が深い内容が記載されています。
 ※報告書の作成は、下記「報告」ボタンから入力内容を確認し、必要に応じて修正を行うことができます。
 ※報告書の作成は、必ず「報告」ボタンから行ってください。入力内容が不明な場合は、お問い合わせください。
 ※報告書の作成は、必ず「報告」ボタンから行ってください。入力内容が不明な場合は、お問い合わせください。
 ※報告書の作成は、必ず「報告」ボタンから行ってください。入力内容が不明な場合は、お問い合わせください。

戻る **次へ**



**PDF XML
ZIPファイル**

XML形式の電子媒体（データ）と
詳細PDFが入ったZIP暗号化ファイル
をPC・スマホに一括保存（名前を付けて保存）

注意点
ZIPファイルを保存しない限り、次のページへ進むことは出来ません。
必ず作成したデータは、ご自身のPC・スマホに保存してください。
(このシステムには作成した情報を保存する機能はありません。)

データ保存後に[次へ]選択

66

④作成した詳細のメール報告方法 (2)写真PDFの作成

事故関連写真PDFの作成ページ

これより先は、システムでの報告のための作業となります。

このページでは事故関連写真PDFの作成を行います。

当画面で写真データをアップロードし、アップロードした写真のPDFファイルのダウンロードを行います。ファイル選択ボタン押下で、PDF化する写真画像を選択後、「PDFファイルダウンロード」ボタンを押下してください。

ファイルの選択

(ファイルアップ数上限：6枚、サイズの上限：256 MB)

PDFを保存する方法▼



写真PDFを作成したら[次へ]選択

事故報告に関連する写真を1つのPDFに変換することが可能です。

※最大6枚、256MBまで可能です。

注意点

- ・写真PDFの作成は任意です。
- ・6枚以上の写真PDFを報告書に添付したい場合は、別途、他のアプリ等での編集をお願いします。
- ・産業保安監督部側で受け取ることのできるメールのデータサイズは10MBまでです。
- ・写真PDFのサイズが10MBを超える場合は、写真のサイズを圧縮するか、他の手段（ファイル交換システム等）で産業保安監督部側へ送付してください。

④作成した詳細のメール報告方法 (3)書類の添付

資料選択、提出ページ

このページでは詳細の提出を行います。

次の資料をお持ちの方は「添付ファイルを選択」から登録して提出してください。

- ・事故発生状況がわかる写真
- ・事故発生電気工作物に係る点検の書類
- ・死傷事故については診断書の写し
- ・単線結線図

物先	必須	[関 東] 関東東北産業保安監督部 (関東東北産業保安監督部所属)
件名	必須	〇〇電力株式会社△△変電所△△線路及事故
設置者情報		
担当氏名	必須	内部 太郎
所属部署名	必須	独立行政法人 高度評価技術基盤機構
部署名	必須	設備評価技術本部 電力安全センター
連絡先電話番号	必須	00-0000-0000
連絡先メールアドレス	必須	nite-taro@00.jp
メールアドレス再入力	必須	nite-taro@00.jp
主任技術者等代理報告者情報		
代理報告者名		
所属部署名		
部署名		
連絡先電話番号		
連絡先メールアドレス		
メールアドレス再入力		

添付ファイルを選択	選択されていません(添付ファイルは全部で10MB以下を目安にしてください)
<input type="button" value="確定"/>	



入力完了後、[提出]ボタンでメール提出が完了します。

詳細の提出を行う産業保安監督部、設置者情報、主任技術者等の報告者情報を入力してください。

※設置者及び主任技術者のメールアドレスを入力すると、監督部にメール送信した際、自身とそれぞれ宛て先に送信確認メールが届きます。

単線結線図等をメールに添付するファイルを追加できます。

(詳細PDF・XMLファイルは自動で添付されます。)

※添付可能なデータサイズは10MBまで。

注意点

- ・[提出]ボタンを押すことで、報告メールが監督部担当部署まで即時送信されます。(詳細作成の練習・動作確認等でメール提出は絶対にしないでください。誤って提出した場合は、提出した監督部までご連絡をお願いいたします。)
- ・詳細提出後は、監督部担当部署へ詳細を提出した旨を、電話等で必ずご連絡ください。
- ・Gmail等の一部サービスでは、ZIPファイルを添付すると、二重ZIPとなるため、送信確認メールが受信できなくなります。

小規模事業用電気工作物に関する詳細の入力方法

⑤小規模事業用電気工作物に関する詳細の入力方法

「10kW以上50kW未満の太陽電池発電設備」又は「『20kW』未満の風力発電設備」の設置者であって、電気報告関係規則第三条の二各号に掲げる小規模事業用電気工作物の事故報告（詳細）を作成・修正をする方は [\[小規模事業用電気工作物事故報告書作成\]](#) をクリックしてください。

詳細作成支援システム

システムの運用詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.nite.go.jp/qa/faq/faq010.html>

事故詳細作成 通報

「電気事業法第26条第1項第4号に掲げる事業用電気工作物」又は「自家発電設備（自家発電設備）」の設置者であって、電気報告関係規則第三条の二各号に掲げる事故報告（詳細）を作成・修正をする方は上記「[\[小規模事業用電気工作物事故報告書作成\]](#)」ボタンをクリックしてください。
（2023年4月1日より小規模事業用電気工作物で発生した事故に関する事故報告が受け付けられるようになりました。詳細はこちらをご覧ください。）
https://www.mhl.go.jp/safety/safety_security/teikokai/safety/safety/teikokai/20230411/10kwhaku.html

小規模事業用電気工作物事故報告書作成 (通報/小規模)

「10kW以上50kW未満の太陽電池発電設備」又は「『20kW』未満の風力発電設備」の設置者であって、電気報告関係規則第三条の二各号に掲げる小規模事業用電気工作物の事故報告（詳細）を作成・修正をする方は上記「[\[小規模事業用電気工作物事故報告書作成\]](#)」ボタンをクリックしてください。
（2023年4月1日より小規模事業用電気工作物で発生した事故に関する事故報告が受け付けられるようになりました。詳細はこちらをご覧ください。）
https://www.mhl.go.jp/safety/safety_security/teikokai/safety/safety/teikokai/20230411/10kwhaku.html

NEW システムの使い方 [YouTube]

システムの使い方動画をYouTubeで視聴できます（プレイリスト）です。
 最新の更新したシステムを把握するために、最新の版の動画を視聴して、実際にシステムを使いながら学ぶことができます。動画は、電気設備の事故（事例）、小規模事業用電気工作物（事故の発生（設備故障、故障））などについて制作されています。ご利用の際は検索窓に「小規模事業用電気工作物」から検索してください。また、動画にチャプターがつけられているので、該当箇所から再生可能です。

独立行政法人 製品評価技術基盤機構
 Copyright © National Institute of Technology and Evaluation.
 All rights reserved.

<主な特徴>

基本的な入力の流れは「事業用電気工作物」の詳細入力と同じですが、一部ページの入力内容が簡略化されています。

- 「様式13総括入力」ページがありません。
- 事故発生電気工作物について、主要な工作物を選択肢から選べるようになっています。
- 小規模事業用電気工作物の事故報告についても、本システムから産業保安監督部へのメール報告が可能です。

詳細な入力方法は、システムの使い方動画から確認できます。
 （左の画面の [\[システムの使い方【YouTube】\]](#) ボタンから、解説動画を閲覧可能です。）

注意点

「小規模事業用電気工作物事故報告」で作成した詳細XMLファイルを「事故詳細作成」で読み込むことは出来ません。
 また「事故詳細作成」で作成したXMLファイルを「小規模事業用電気工作物事故報告」で読み込むことも出来ません。

速報の入力方法

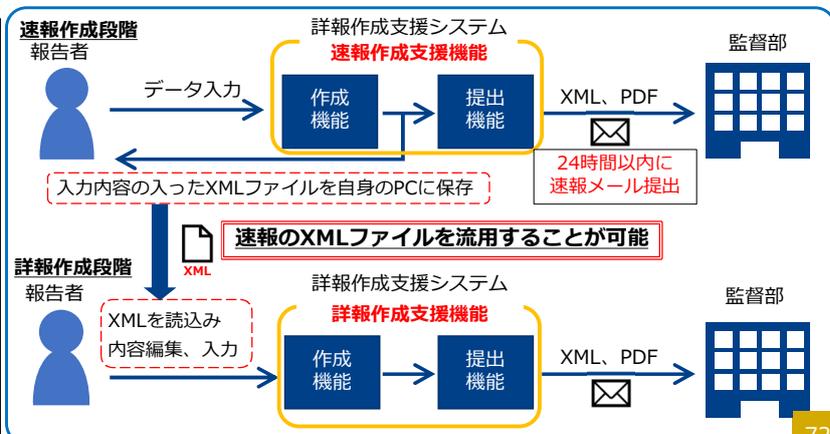
⑥速報の入力方法

令和5年度より、詳細作成支援システムでは「速報」の作成と提出が可能です。

【事故詳細作成】（電気関係報告規則第3条に係る電気事故報告(詳報)）

【小規模事業用電気工作物事故報告書作成】（旧称：小出力の太陽電池発電又は風力発電設備に係る事故）の各種ボタン右にある「速報」または「速報(小規模)」ボタンから作成することができます。

速報についてもXMLファイルを一時的に保存することができ、詳細を作成する際にこの速報XMLファイルを読み込ませることによって、**一部の入力内容を詳細入力作業に引き継ぐことが可能**です。



事業用電気工作物に係る速報(1/3)

必要に応じて、過去に詳細作成支援システムで作成した速報データ(XML形式)を「ファイルの選択」から選択、「ファイルをアップロードする」から読み込み、速報の新規で入力内容の活用が可能です。

速報を新規で作成、提出したい場合は「報告区分」の項目からご入力ください。

※ファイルの選択：ファイルが選択されています。(サイズの上限：1 MB) [ファイルをアップロード](#)

報告区分	必須	*速報
報告書提出日		年-月-日
報告先	必須	<input type="radio"/> 【本署】 経済産業省 産業保安グループ 電力安全課 (経済産業大臣あて) <input type="radio"/> 【北海道】 北海道産業保安監督部 (北海道産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【東北】 関東東北産業保安監督部東北支部 (関東東北産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【関東】 関東東北産業保安監督部 (関東東北産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【中部】 中部近畿産業保安監督部 (中部近畿産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【北陸】 北陸産業保安監督部 (中部近畿産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【近畿】 中部近畿産業保安監督部近畿支部 (中部近畿産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【中国】 中国四国産業保安監督部 (中国四国産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【四国】 中国四国産業保安監督部四国支部 (中国四国産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【九州】 九州産業保安監督部 (九州産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【那覇】 那覇産業保安監督事務所 (那覇産業保安監督事務所長あて)
報告事業者		<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 個人
郵便番号		<input type="text"/> <input type="text"/> 郵便番号から住所を設定
都道府県名	必須	<input type="text"/>
市区町村名		<input type="text"/>
町域・番地・建物名		<input type="text"/>
代表者氏名		<input type="text"/>

過去に作成した事業用電気工作物の速報XMLファイルをアップロードすることで、入力作業の短縮が可能です。

入力する内容は詳細の入力項目の中で、速報として必要な部分のみを抜き出した形式となっており、1ページの入力作業で提出が可能です。

なお、必須項目となっている部分を入力することで提出が可能ですが、速報提出段階で判明していない入力項目がある場合は「現在詳細を調査中」、「自社内で検討中」等、分かっている範囲で記載ください。

事業用電気工作物に係る速報(2/3)

報告者氏名	必須	<input type="text"/>
報告者メールアドレス	必須	<input type="text"/>
報告者電話番号	必須	<input type="text"/>
報告者所属	必須	<input type="text"/>
主任技術者(外部委託にあつては電気管理技術者または保安業務担当者)の名前	必須	<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 未選択
主任技術者選任方法	必須	<input type="radio"/> 自社選任 <input type="radio"/> 外部選任 所属 <input type="text"/> [[外部選任について] 外注事業者 派遣法による派遣事業者) <input type="radio"/> 統括 <input type="radio"/> 兼任承認 <input type="radio"/> 選任許可 <input type="radio"/> 外部委託
主任技術者種類		<input type="checkbox"/> 電気主任技術者 (<input type="radio"/> 第一種 <input type="radio"/> 第二種 <input type="radio"/> 第三種 免状番号: <input type="text"/>) (電気工事士 <input type="radio"/> 第一種 <input type="radio"/> 第二種 <input type="radio"/> 特種 <input type="radio"/> 認定校卒業 (第1種) <input type="radio"/> 認定校卒業 (第2種) <input type="radio"/> その他 その他を選択された方は、備考に記載してください。) <input type="checkbox"/> ボイラー・タービン主任技術者 (<input type="radio"/> 第一種 <input type="radio"/> 第二種 免状番号: <input type="text"/>) <input type="checkbox"/> ダム水路主任技術者 (<input type="radio"/> 第一種 <input type="radio"/> 第二種 免状番号: <input type="text"/>)
主任技術者連絡先		<input type="text"/>

件名	必須	<input type="text"/>
事故発生日	必須	年-月-日 時-分 <input type="checkbox"/> 不明
事故発知日		年-月-日 時-分
天候	必須	<input type="checkbox"/> 晴れ <input type="checkbox"/> 曇り <input type="checkbox"/> 霧 <input type="checkbox"/> 雨 <input type="checkbox"/> 雪 <input type="checkbox"/> あられ・ひょう <input type="checkbox"/> 雷 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/>
事故発生電気工作物の設置されている事業場名	必須	<input type="text"/>
都道府県名	必須	<input type="text"/>
市区町村名	必須	<input type="text"/>
番地・建物名	必須	<input type="text"/>
事業場の最大電力 (発電出力)		<input type="text"/> kW
事業場の受電電圧		<input type="text"/> kV
事業場の受電容量		<input type="text"/> kVA
受電形態		<input type="text"/>

事業用電気工作物に係る速報(3/3)

事故の種類 必須	<input type="checkbox"/> ①感電死亡事故 <input type="checkbox"/> ②感電負傷事故 <input type="checkbox"/> ③感電以外の死傷事故 <input type="checkbox"/> ④電気火災事故 <input type="checkbox"/> ⑤物損等事故 <input type="checkbox"/> ⑥破壊事故 <input type="checkbox"/> ⑦発電支障事故 <input type="checkbox"/> ⑧供給支障事故 <input type="checkbox"/> ⑨波及事故 <input type="checkbox"/> ⑩社会的影響が大きい事故 <input type="checkbox"/> ⑪放電支障事故 <input type="checkbox"/> ⑫その他
事故発生電気工作物	<input type="text"/>
メーカー名	<input type="text"/>
製造年月	<input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月
使用電圧	<input type="text"/> V
<input type="checkbox"/> 他にも事故発生電気工作物があります	

「次へ>>」ボタンを押すと入力が完了し、速報PDF/XMLファイルの保存作業及び、速報のメール報告を実施できます。

詳細と同様に速報のXMLファイルを一時保存できるので、報告用フォーマットの事前準備、社内教育、入力作業の一時中断等に活用いただけます。
 ※詳細の提出と同様、誤って作成途中の速報を提出しないように十分ご注意ください。

事故の概要 (最大2000文字) 必須	①感電死亡事故、②感電負傷事故、③感電以外の死傷事故の場合 感電による死亡(負傷)者数、感電以外による死亡(負傷)者数を含めてご記載ください。 ⑦発電支障事故、⑧供給支障事故、⑨波及事故の場合、⑩放電支障事故の場合 発電・供給・放電支障電力(KW)、発電・供給・放電支障時間を含めてご記載ください。
事故原因詳細 必須	<input type="text"/>
応急処置	<input type="text"/>
復旧作業	<input type="text"/>
本復旧日時 必須	年-月-日-時-分 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 <input type="radio"/> 実施済 <input type="radio"/> 実施せず <input type="radio"/> 未定 <input type="radio"/> 予定
仮復旧日時	年-月-日-時-分 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日 <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 <input type="radio"/> 実施済 <input type="radio"/> 実施せず <input type="radio"/> 未定 <input type="radio"/> 予定
<<戻る 次へ>> XMLファイルの一時保存	

小規模事業用電気工作物に係る速報(1/3)

必要に応じて、過去に詳細作成支援システムで作成した速報データ(XML形式)を「ファイルの選択」から選択、「ファイルをアップロードする」から読み込み、速報の訂正や入力内容の流用が可能です。

速報を新規で作成、提出したい場合は「報告区分」の項目からご入力ください。

ファイルの選択 ファイルが選択されていません。(サイズの上限: 1 MB) **ファイルをアップロードする**

報告区分 必須	<input checked="" type="radio"/> 速報
報告書提出日	年-月-日 <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
報告先 必須	<input type="radio"/> 【本省】 経済産業省 産業保安グループ 電力安全課(経済産業大臣あて) <input type="radio"/> 【北海道】 北海道産業保安監督部(北海道産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【東北】 関東東北産業保安監督部東北支部(関東東北産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【関東】 関東東北産業保安監督部(関東東北産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【中部】 中部近畿産業保安監督部(中部近畿産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【北陸】 北陸産業保安監督部(中部近畿産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【近畿】 中部近畿産業保安監督部近畿支部(中部近畿産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【中国】 中国四国産業保安監督部(中国四国産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【四国】 中国四国産業保安監督部四国支部(中国四国産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【九州】 九州産業保安監督部(九州産業保安監督部長あて) <input type="radio"/> 【那覇】 那覇産業保安監督事務所(那覇産業保安監督事務所長あて)
報告事業者	<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 個人
代表者氏名	<input type="text"/>

小規模事業用電気工作物に係る速報についても、1ページだけの入力作業で提出が可能です。

過去に作成した小規模事業用電気工作物の速報XMLファイルのアップロードに対応しています。

過去に作成・保存した詳報XMLファイルの 再利用方法について

79

⑦過去に作成・保存した詳報XMLファイルの再利用方法について

(例)

- ①産業保安監督部に提出した詳報について、報告内容に手直しと再提出が必要になった場合。
- ②過去に同じ状況で事故が発生した経験があり、その時の詳報XMLの入力内容を一部流用したい場合。
- ③経年劣化等で複数台の機器が立て続けに故障し、それぞれ別件で事故報告したい場合。

(事故の経緯や設置場所、事故原因が一致しているため内容を流用したい。)

⇒過去に作成した詳報/速報XMLファイルをお持ちの場合、入力内容の一部流用が可能です。

電気事故の報告書を新たに作成します。

報告書の新規作成

途中まで作成して保存した電気事故の報告書のファイルを読み込んで、作業を再開します。
また、作成した電気事故の報告書を修正する場合も、こちらからファイルを読み込んで、修正作業を行います。

報告書の作成作業の再開、及び、作成した報告書の修正

作成した電気事故の報告書を保安監督部にメールで送信します。

報告書メール送信

<<戻る

このページから詳報作成支援システムで作成した詳報データ (XML形式) をアップロードし、詳報の作成再開や訂正を行うことが出来ます。

① **ファイルの選択** ファイルが選択されていません (サイズの上限: 1 MB) **② ファイルをアップロードする**

【注意】 詳報データ (XML形式) は、ZIPファイルの外に出してから選択してください。ZIPファイルの中に入ったままでは選択できません。

<<戻る

過去に保存した詳報XMLファイルを選択

詳報XMLファイルを選択後[ファイルをアップロードする]ボタンを押すと、過去の入力内容が埋めこまれた状態の詳報入力ページが開きます。修正が必要な部分のみ修正し、適宜新規保存やメール報告を実施してください。

80

よくあるご質問及び注意事項

3. よくあるご質問及び注意事項

Q. 利用体験（練習入力）をすることはできますか？

A. 最後の「提出」ボタンを押さなければ、練習入力、社内教育等でご活用できます。

※誤って練習入力したデータを監督部へ提出しないよう十分ご注意ください。

Q. どこから始めればよいか、全く分からない。

A. まずはYouTubeの動画マニュアルをご確認いただき、不明点があれば tso-system@nite.go.jp にお問い合わせください。

Q. 文字数制限で、すべての内容を記載出来ない場合はどうすればいいのか？

A. 制限数に納まるように編集いただくか、または「別途添付ファイルにて詳細を記載」としていただき、詳報提出時に添付ファイルを別途添付してご提出ください。

※保安監督部にメール送付できるデータサイズの上限は合計10MBまでです。10MBを超える場合は所轄の保安監督部までご相談ください。

Q. ブラウザの「戻る」ボタンをクリックすると『フォームを再送信しますか?』が表示されます。

A. ブラウザの戻る機能（「←」（戻る）ボタン等）は、本システムでは対応しておりません。

1つ前の画面や別のページを表示したい場合は、システム画面内の「戻る」ボタンで移動してください。

Q. 画面表示がおかしい、表示崩れが発生している。

A. システム画面の表示が崩れる等の事象が発生している場合には、操作画面上で「Ctrl + F5（MacはCommand + R）」を押すか、ブラウザに保存されている詳報作成支援システムのキャッシュ（履歴）を一度消去することで解消する場合があります。

また、本システムはGoogle chromeとMicrosoft Edgeブラウザのみ対応しております。

上記以外のブラウザでご利用の場合は表示崩れが発生する可能性がありますので、利用をお控えください。

Q. 入力途中でPCの電源が切れてしまった。途中で間違えてシャットダウンしてしまった。

A. 一度もXMLファイルを保存されていない場合は、残念ながら再度最初から入力する必要があります。

入力途中でもXMLファイルをこまめに一時保存してください。

Q. 利用できるPCの条件を教えてください

A. Google chrome、Microsoft Edgeが動作するPCであれば基本にご利用いただけます。
その他、ZIPファイルを解凍するソフトウェア、PDFファイルを閲覧するソフトウェア等をご準備ください。
(Windowsをお使いのPCであれば、ZIPファイルを右クリックして「すべて展開」を選択することで解凍する機能が標準搭載されております。)

Q. 事故発生日も覚知日も不明なときはどうすればいいのか？

A. 事故覚知日に、事故が発覚して第1報を受けた際の日時を事故覚知日にご記載ください。

Q. 過去に一時保存したXMLファイルの保存場所が分からなくなった。

A. 「*.xml」でフォルダ内を検索ください。

Q. 一時保存したXMLファイルが読み込めない。

A①. ZIPファイルの中にXMLファイルが入ったままの状態では、本システムで読み込みができません。
ZIPファイルを解凍してXMLファイルを取り出した状態で読み込みいただくようお願いいたします。

A②. 「事故詳細作成」のボタン及びその右横の「速報」ボタンから作成したXMLファイルは、
「小規模事業用電気工作物事故報告書作成」ボタン及びその右横の「速報（小規模）」ボタンから進んだページで読み込ませることはできません。

A③. 「小規模事業用電気工作物事故報告書作成」ボタン及びその右横の「速報（小規模）」ボタンから作成したXMLファイルは、
「事故詳細作成」のボタン及びその右横の「速報」ボタンから進んだページで読み込ませることはできません。

Q. 事故発生電気工作物を記載するページにて、プルダウンリストの中に該当する電気工作物が見当たらない。

A. 該当する電気工作物が無い場合は、プルダウン内の「その他」をご選択いただき、詳細を記載ください。
場合によっては詳細として報告対象外の可能性もございますので、所轄の保安監督部までご相談ください。

Q. 詳細作成支援システムに入力した個人情報の保護はどうなっているのか？

A. このシステムは、入力されたデータをサーバに保存する機能を有していませんので、問題はございません。

Q. 監督部へ提出後、誤りがあることが判明したが、どうすればいいのか？

A. 再度XMLファイルを読み込んで、誤り箇所を修正して再提出いただき、所轄の監督部へ再提出した旨をご連絡ください。

Q. システムの利用時間を教えてください

A. 原則、24時間365日ご利用いただけます。（システムメンテナンス時を除きます。）
システム運用情報は、以下のURLにて事前にお知らせしていますが、緊急の場合は予告なくシステムの運用を停止する場合があります。
<https://www.nite.go.jp/gcet/tso/shoho.html>

Q. 1号、12号以外の事故に関する入力方法を知りたい。

A. まずはYoutubeの入力マニュアル動画をご確認いただき、ご不明点がございましたら、tso-system@nite.go.jp までお問い合わせください。

Q. 詳細の提出を取り下げる方法を教えてください。

A. 本システムでは一度提出した詳細を取り下げる機能は有しておりません。
お手数ですが、所轄の監督部まで直接ご連絡ください。

(参考)速報の入力方法について (YouTube動画マニュアルのご紹介)

85

(参考)速報の入力方法について(YouTube動画マニュアルのご紹介)



※詳細作成支援システムの使い方 (速報編) - YouTube

<https://youtu.be/vvPV-RStVdY?si=tKqI1G5-pR6BPVv9>



※詳細作成支援システムの使い方 - YouTube

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLWxWKUOj3xAL7il1d7jJ17v8ieCHYM6gk>

速報並びに詳細の詳しい入力方法については、NITEのYouTube公式チャンネルでも解説動画を公開しています。社内教育や、事故が起こる前の事前準備、実際に事故が発生した際の入力例の参考として活用いただければ幸いです。



86

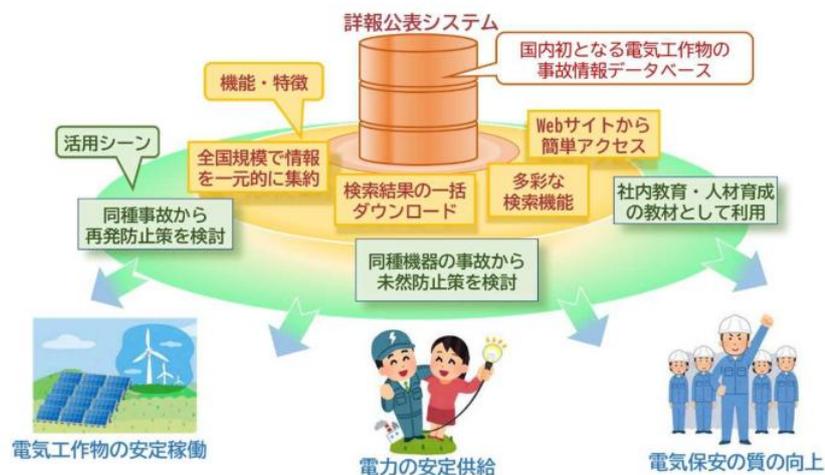
(参考) 詳報公表システムの概要

87

4. (参考) 詳報公表システムの概要

■システムの概要と目的

詳報公表システムは、電気事業法に基づく電気工作物に関する全国の事故情報（詳報）が一元化されたデータベースです。
匿名化された事故情報を、同種事故の再発防止策や未然防止策の検討、社内教育等に活用できます。



88

■アクセス方法

■ 詳細公表システムの利用は、
NITEホームページ→ 国際評価技術→電気保安技術支援業務・スマート保安
のメニュー一覧にある「詳細公表システム」からアクセスできます



【詳細公表システム】
<https://www.nite.go.jp/gcet/tso/shohopub/search/>

■システムの特徴

条件検索機能

- 事故の種類を選択可能です。
- 電気工作物の種類をプルダウンメニューから選んで検索が可能です。

キーワード検索機能

- 3つのキーワード、7種の検索項目、2種の選択肢の掛け合わせで様々な検索が可能です。
- さらに掛け合わされたキーワード条件の上に、かつ・または・どれかを満たすという（AND/OR）条件を組み合わせることで詳しい検索も可能です。

検索結果の一覧化機能

- 検索結果は一覧で表示され、マウスカーソルを当てると、情報の詳細を閲覧できます。
- 「一覧表出力」をクリックすると、検索結果のデータをCSVファイルでダウンロードできます。
- ダウンロードしたい情報にチェックを入れて、選択したデータのみをCSVファイルとしてダウンロードすることも可能です。
- 「検索条件変更」をクリックすると、検索条件を保持した状態で検索画面に戻り、再検索ができます。

被害状況	電気工作物 (区分)	事故発生電気工作物の概要と被害箇所	事故原因 (大分類/小分類)	当否
高圧電力：2000kV イライラ-水害の破孔。	【高圧設備 (高圧)】-【変圧器】 【水力発電機 (水力設備)】	電力需給用計器用変流器- ボイラー-中継切り継ぎ水-	設置・過失/作業者の過失 保守不備/保守不完全	当該事故の発生に直接関係あり
高圧電力：670kV ボイラー-高圧設備からの高水が発生。	【火力発電機 (火力設備)】 【変圧器】 【電力需給用計器用変流器】 【ボイラー-給水設備】	ボイラー-給水設備からの高水 漏れからの高水が発生した。	設置・過失/作業者の過失 保守不備/保守不完全	当該事故の発生に直接関係あり
高圧電力：570kV 不明 前送	【高圧設備 (高圧)】-【電線】	計器用変圧器の端子部 -キュービクル内部の床-	保守不備/保守不完全	当該事故の発生に直接関係あり
高圧電力：288kV 不明 前送	【高圧設備 (高圧)】-【電線】	高圧中送みケーブル (1.9)	保守不備/保守不完全	当該事故の発生に直接関係あり
高圧電力：268kV 不明 前送	【高圧設備 (高圧)】-【電線】	高圧中送みケーブル (6.6)	設置・過失/火災	当該事故の発生に直接関係あり
高圧電力：348kV 不明 前送	【高圧設備 (高圧)】-【電線】	高圧中送みケーブル (6.6)	保守不備/自然火災	当該事故の発生に直接関係あり
高圧電力：625kV 不明 前送	【高圧設備 (高圧)】-【電線】	外線設備内の高圧中送み	設置・過失/作業者の過失	当該事故の発生に直接関係あり

本資料の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。
また、他サイト等へ無許可での引用を厳禁いたします。

Unauthorized copying prohibited.

Unauthorized reproduction prohibited.